



User Manual

OMNINAS KD20

目次

製品概要

製品特徴	1-1
同梱物	1-1
動作要件	1-2
製品外観	1-4
前面	1-4
背面	1-5
LED 役割.....	1-6

まずはじめに

ハードウェア	2-1
はじめに行うこと.....	2-1
OMNINASに接続する	2-6
ネットワークに接続する	2-6
スイッチングハブ/ ルーターに接続する	2-6
PCから直接OMNINASに接続する.....	2-7
電源アダプタを接続する	2-8
電源を入れる.....	2-9
OMNINASに接続する.....	2-10
ユーティリティを利用して接続する	2-11

システム設定.....	2-12
Webブラウザから接続する	2-16
ネットワークドライブの割り当て	2-20
全てを割り当てる	2-20
個々のドライブの割り当て	2-21
ネットワークドライブの削除.....	2-22

ウェブ管理画面

概要	3-1
ホーム	3-1
設定	3-3
ストレージ	3-4
共有	3-5
USB.....	3-6
バックアップ.....	3-7
BT ダウンロード	3-8
共有ボックス.....	3-9
メディアサーバー	3-10
管理画面の起動について	3-10
ログイン	3-11
ユーザー管理	3-12
ユーザーリストを確認する	3-12
ユーザーの追加.....	3-12

ユーザーの編集.....	3-14
ユーザーの削除.....	3-14
ストレージ管理.....	3-15
RAID 管理.....	3-15
RAID タイプ.....	3-16
RAID モード.....	3-16
ディスク管理.....	3-18
チェックディスク.....	3-18
ディスク管理.....	3-19
ホットスワップHDD.....	3-19
ドライブの交換.....	3-22
フォーマット.....	3-23
自動ミラーリング.....	3-24
共有管理.....	3-25
フォルダ追加.....	3-25
フォルダリストを確認する.....	3-27
フォルダの編集.....	3-27
フォルダを削除.....	3-28
USB管理.....	3-29
プリンター設定.....	3-29
自動コピー.....	3-30

システムログ	3-31
ログをクリア.....	3-31
バックアップ	3-32
バックアップスケジュールを設定する.....	3-33
バックアップスケジュールを編集する.....	3-34
バックアップスケジュールを削除する.....	3-34
バックアップログを確認する.....	3-35
設定	3-35
ネットワーク設定.....	3-35
DHCP設定.....	3-36
手動設定.....	3-36
時間の設定.....	3-37
再起動、電源のOFF.....	3-38
再起動させる.....	3-38
電源をOFFにする.....	3-39
工場出荷時に戻す.....	3-39
Web管理画面からのリセット.....	3-39
本体からのリセット.....	3-40
ファームウェアの更新.....	3-40
アプリケーションサービス	3-42
iTunes サーバー.....	3-42
BT ダウンロード.....	3-43

BT ダウンロードの設定	3-43
詳細設定	3-45
ダウンロードファイル	3-46
ファイル管理	3-47
共有ボックス	3-48
共有ボックスの設定	3-48
外部からのアクセス	3-50
メディアサーバーの設定	3-52

OMNINAS for Android

アプリケーションのインストール	4-1
概要	4-1
OMNINASに接続する	4-3
WANのデバイスの追加	4-3
LANのデバイスの追加	4-5
メインメニュー	4-7
ドキュメント	4-8
ムービー	4-9
写真	4-10
Facebook への投稿	4-11
ビデオ	4-13

音楽	4-14
BT	4-15

OMNINAS for iOS

メインメニュー	5-1
OMNINAS に接続	5-2
リモートデバイスの追加	5-2
ローカルデバイスの追加	5-3
設定	5-5
ドキュメント	5-6
ムービー	5-7
写真	5-8
Facebook への投稿	5-8

トラブルシューティング

トラブルシューティング	6-1
環境動作	6-4
システム温度.....	6-4
システムFAN 設定	6-4

Copyright

©2012 by Shuttle® Inc. All Rights Reserved.

No part of this publication may be reproduced, transcribed, stored in a retrieval system, translated into any language, or transmitted in any form or by any means such as electronic, mechanical, magnetic, optical, chemical, photocopy, manual, or otherwise, without prior written permission from Shuttle® Inc.

Other brands and product names used herein are for identification purposes only and may be trademarks of their respective owners.

Disclaimer

Shuttle® Inc. shall not be liable for any incidental or consequential damages resulting from the performance or use of this product.

Shuttle® Inc. makes no representation or warranty regarding the contents of this manual.

Information in this manual had been carefully checked for accuracy; however, no guarantee is given as to the correctness of the contents. For continuing product improvement, Shuttle® Inc. reserves the right to revise the manual or make changes to the specifications of this product at any time without notice and obligation to any person or entity regarding such change. The information contained in this manual is provided for general use by customers.

- FCC-B Radio Frequency Interference Statement

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation. Any changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the authority to operate equipment.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.

CAUTION:

Any changes or modifications not expressly approved by the guarantee of this device could void the user's authority to operate the equipment.

CE compliance

This device is classed as a technical information equipment (ITE) in class B and is intended for use in living room and office. The CE and WEEE marks approve the conformity by the EU-guidelines:

- EMC- guideline 2004/108/EC ,Directive on Electromagnetic Compatibility
- LVD - guideline 2006/95/EC ,Directive on Low Voltage
- ErP - guideline 2009/125/EC ,Directive on ecoconception of Energy related Products
- RoHS- guideline 2002/95/EC ,Directive on Restriction of Hazardous Substances
- WEEE - guideline 2002/96/EC, Directive on The Waste Electrical and Electronic Equipment

Safety Instructions

The following safety precautions will increase the life of the Computer.

Follow all Precautions and instructions.



Do not place this device underneath heavy loads or in an unstable position.



Do not use or expose this device around magnetic fields as magnetic interference may affect the performance of the device.



Do not expose this device to high levels of direct sunlight, high-humidity or wet conditions.



Do not block the air vents to this device or impede the airflow in any way.



Do NOT expose to or use near liquid, rain, or moisture.
Do NOT use the modem during electrical storms.

The unit can be operated at an ambient temperature of max. 40°C (104°F). Do not subject it to temperatures below 0°C (32°F) or above 40°C (104°F).

The ambient operating humidity for this device is 10% (minimum) to 90% (maximum).

Chapter 1

製品概要

主な仕様

- Embedded Linux搭載
- Microsoft® Windows® 、Mac OS に対応
- 最大4TB HDD 2 台を搭載可能
- USB3.0 (前面) : オートコピー機能
- USB2.0 (背面) : USBメモリー、外付けHDD、USBハブ、プリンタ、デジタルカメラ等を共有可能
- SDカードリーダー (前面) SD/SDHC/SDXC対応 最大2TBまで : オートコピー機能
- RAID 0、1、JBOD、シングル HDD サポート
- 消費電力 (スタンバイ/ 操作時) : 9W/15.5W
- 排熱効率をあげるアルミニウムシャーシ
- USB Wi-Fi 対応 (別売オプション)
- ビデオストリーミングが可能なメディアサーバー
- 簡単HDD設置とワンボタンHDD ホットスワップ
- PC を必要としないBT ダウンロード
- ウルトラサイレントファン搭載
- 排熱効果のある2.5mm 厚アルミを合わせたエレガントデザイン

同梱物



OMNINAS



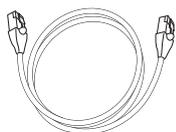
電源コード



ACアダプタ



CD-ROM



LANケーブル



ネジセット



クイックスタートガイド

動作要件

Windows :

- Pentium® III 500Mhz 以上のプロセッサ
- Microsoft® Windows® XP Home / Professional / Professional x64 SP3 以降
- Microsoft® Internet Explorer® 7.0, Firefox® 3.x, Google Chrome
- または Apple Safari 3.0 以上
- 使用OS を動作させる最低限のメモリー
- CD またはDVD ドライブ
- 10/100/1000 Mbps 対応イーサネットポート
- DHCP ネットワーク (推奨)
- ルーター、スイッチングハブ (推奨)
- 3.5" SATA HDD

Mac :

- Mac OS X 10.4 以上
- Apple Safari 3.0 以上
- 使用OS を動作させる最低限のメモリー
- CD またはDVD ドライブ
- 10/100/1000 Mbps 対応イーサネットポート
- DHCP ネットワーク (推奨)
- ルーター、スイッチングハブ (推奨)
- 3.5" SATA HDD

Linux :

- Linux kernel 2.6.x 以上
- 10/100/1000 Mbps 対応イーサネットポート
- DHCP ネットワーク (推奨)
- ルーター、スイッチングハブ (推奨)

スマートフォン :

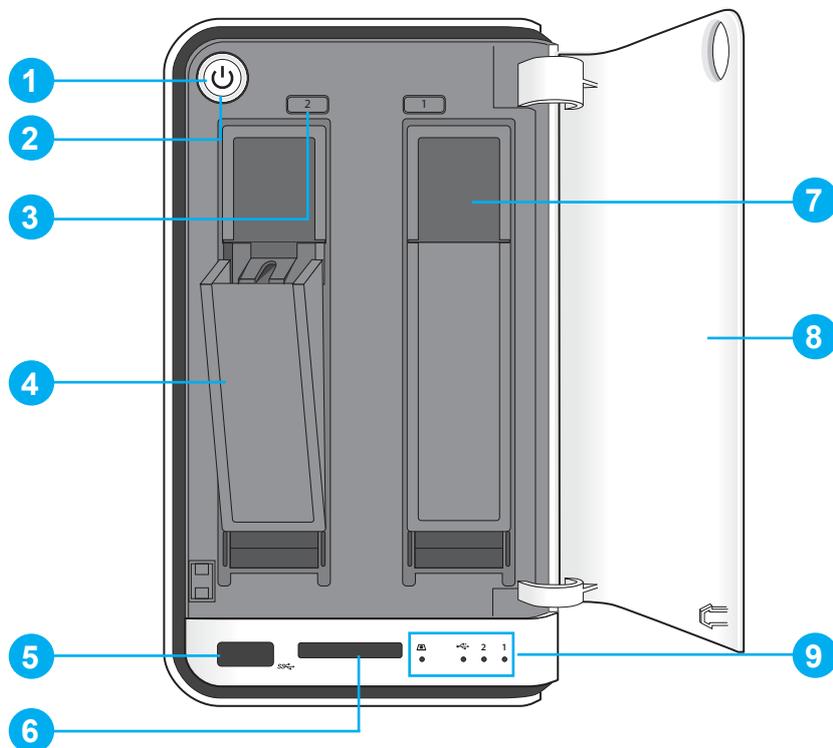
- 対象機器: iPhone, iPad, Android フォン、Android タブレット
- 搭載OS: iOS 4.2 以上、Android 2.3 以上

パーソナルクラウドと外部からのアクセス：

- インターネット接続
- ユニバーサルプラグアンドプレイ(UPnP™) 対応ルーター、及びポート転送設定変更な管理者権限
- クラウドサービス利用が可能なインターネット通信速度
- 下り速度：2.5 Mbps (推奨)
- 上り速度：500 Kbps (推奨)

製品外観

前面

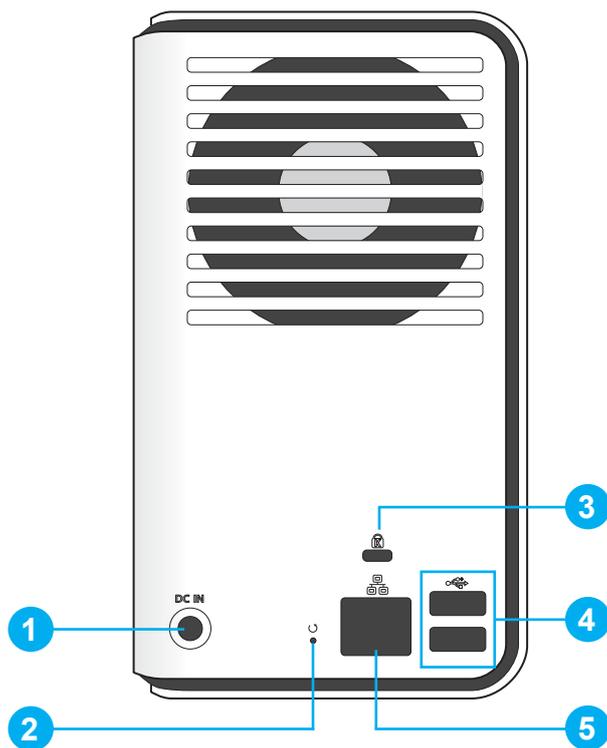


OMNINAS 前面

前面詳細

位置	名称
1	電源ボタン
2	ステータスLED (LED役割参照) HDD 取り出しボタン (2 = HDD2, 1 = HDD1)
3	Note: RAID 1 モード時のみ使用可能
4	HDD トレーロック
5	USB 3.0 (本箇所のみオートコピー対応)
6	SD カードリーダー (本箇所のみオートコピー対応)
7	HDD ベイ (HDD1 = 右側、HDD2 = 左側)
8	ベイヤカバー
9	LED インジケータ (LED役割参照)

背面



OMNINAS背面

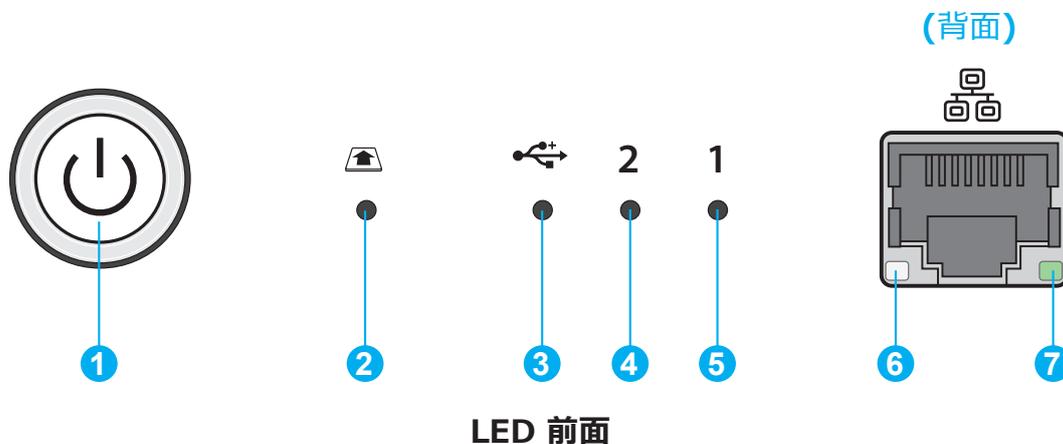
背面詳細

位置	名称
1	電源コネクタ
2	リセットボタン
3	ケンジントロック
4	USB 2.0 x2 (ポート2 = 上側、ポート3 = 下側)
5	LAN ポート

LED 役割

OMNINAS には6個のLED が搭載されています。(5 個 = 前面、1 個 = 背面)

各役割と意味については下記の通りとなります。



LED 役割

位置	名称	色/ 状	備考
	ステータス LED	青 / 点滅 / 電子音	システムが起動/ 終了中に 1回だけ電子音が鳴ります。
		青 / 点灯 / 電子音	電源ON によりシステム起動完了
		赤 / 点滅 / 電子音	システムが起動に失敗。または、システム がIP アドレス取得に失敗 電子音が3 回鳴ります。
		赤 / 点灯	ファームウェア破損
		青 / ゆっくり点滅	省エネモード。設定画面より変更可
		無点灯	電源OFF
1	Web 管理画面 ステータス LED	青 / 点滅	Web 管理画面起動中
		青 / 点灯 / 電子音	Web 管理画面起動完了
		赤 / 点滅 / 電子音	Web 管理画面起動失敗 電子音が3回なります。
	バックアップ ステータスLED	青 / 点灯 / 電子音	バックアップ終了 電子音が3 回鳴ります。
		赤 / 点滅 / 電子音	バックアップ失敗 電子音が3 回鳴ります。
	自動コピー ステータスLED	青 / 点灯 / 電子音	コピー完了 電子音が3 回鳴ります。
		赤 / 点滅 / 電子音	コピー失敗 電子音が3 回鳴ります。
	リセット	青 / 点滅 / 電子音	プログラムをリセット 電子音が1 回鳴ります。

位置	名称	色/ 状	備考
2	SD カードリーダー	青 / 点滅→点灯	有効, オートコピー完了
		Off	
3	USB	青 / 点灯	機器接続 / プリンター接続中
		青 / 点滅→点灯	有効, オートコピー完了
		Off	
4	HDD 2	青 / 点灯	HDD アクセス中
		青 / 点滅 / 電子音	RAID1 選択 電子音が1 回鳴ります。
		赤 / 点灯	失敗
		赤 / 点滅	HDD2 リビルド
		Off	未検出
5	HDD1	青 / 点灯	HDD アクセス中
		青 / 点滅 / 電子音	RAID1 選択 電子音が1 回鳴ります
		赤 / 点灯	失敗
		赤 / 点滅	HDD1 リビルド
		Off	未検出
背面			
6	LAN / スピードLED	緑 / 点灯	リンクスピード100 Mbps
		橙 / 点灯	リンクスピード1000 Mbps
		Off	接続無し / リンクスピード 10 Mbps
7	LAN / リンク LED	緑 / 点灯	LAN リンク
		緑 / 点滅	LAN アクセス
		Off	未接続

Chapter 2

まずはじめに

HDDの取り付け

ここではOMNINASの使用にあたり、HDD取り付け方法について説明します。

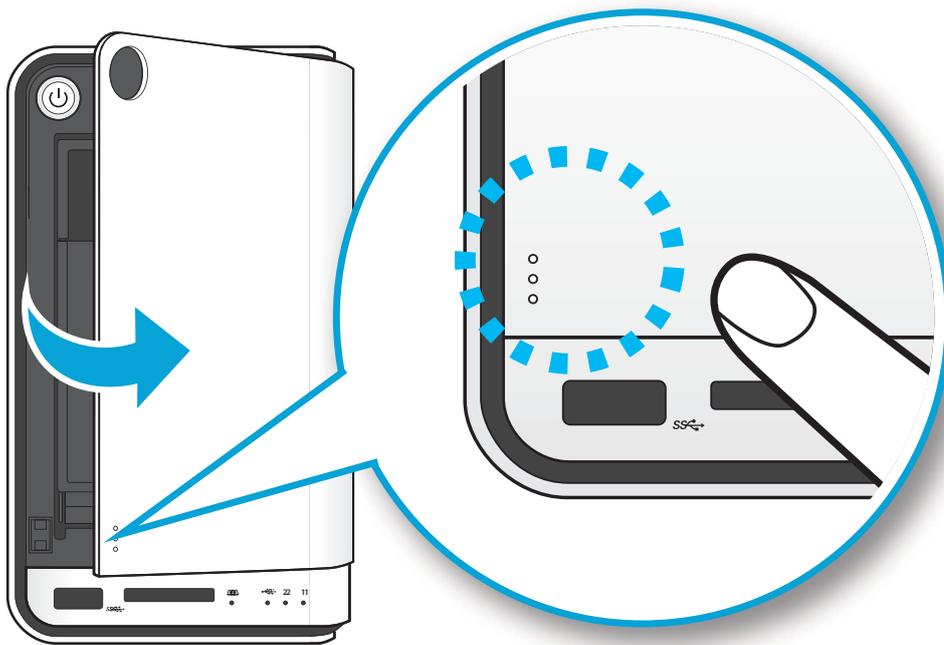
はじめに行うこと

まずHDD取り付けにあたり、シングル、JBOD、RAID 0/1モードなどの動作設定含め、最初に行うことについての説明します。

IMPORTANT:

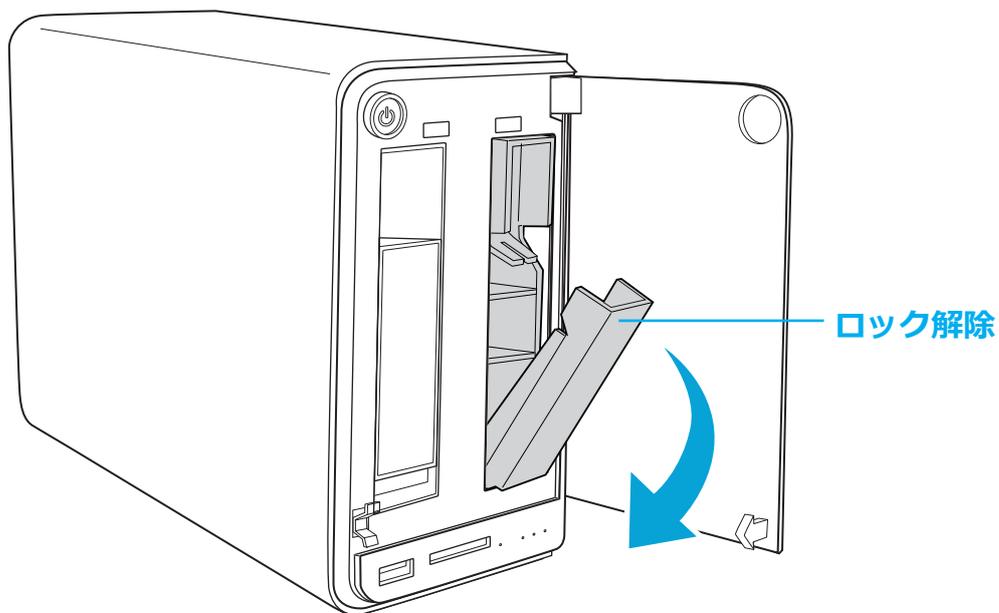
データ消失や損壊を防ぐため、HDD を取り外す前に必ず電源をオフにしてください。

1. システムの電源がオフになりましたら、電源ボタンを3秒程度(電子音が鳴るまで)押し続けます。LED が点滅を始めます。
2. ベイカバー左下を押すとベイカバーが開きます。
3. HDDトレイがあるのを確認できます。



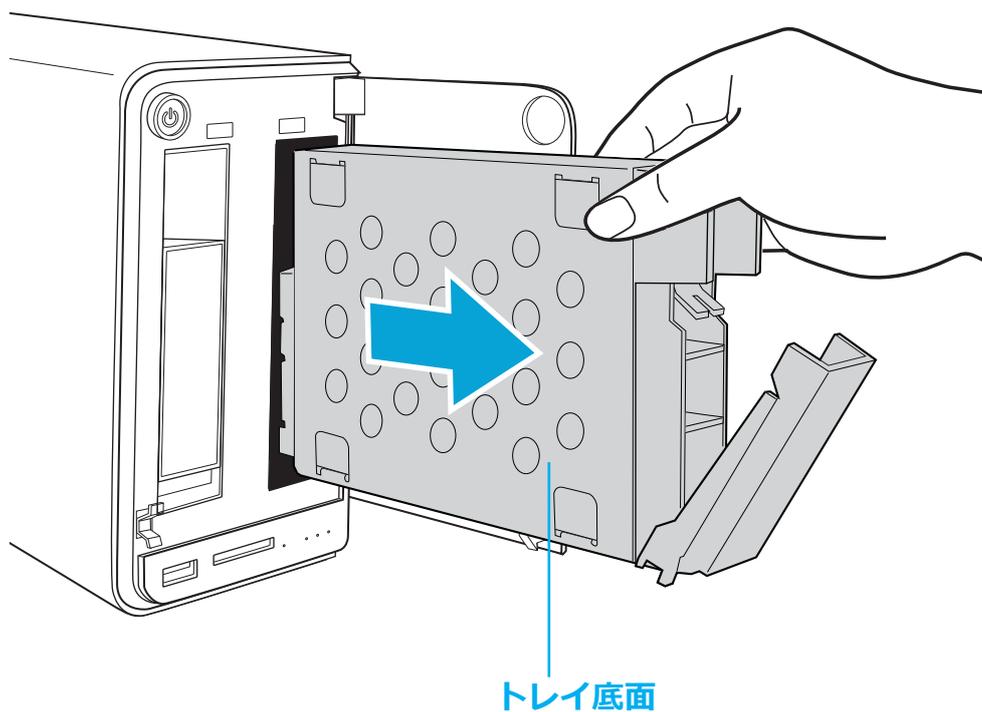
HDD ベイカバーを開ける

4. HDD トレイについているロックを押し下げるようにしてロック解除します。



HDD1 ロック解除

5. トレーを掴んで引き出します。

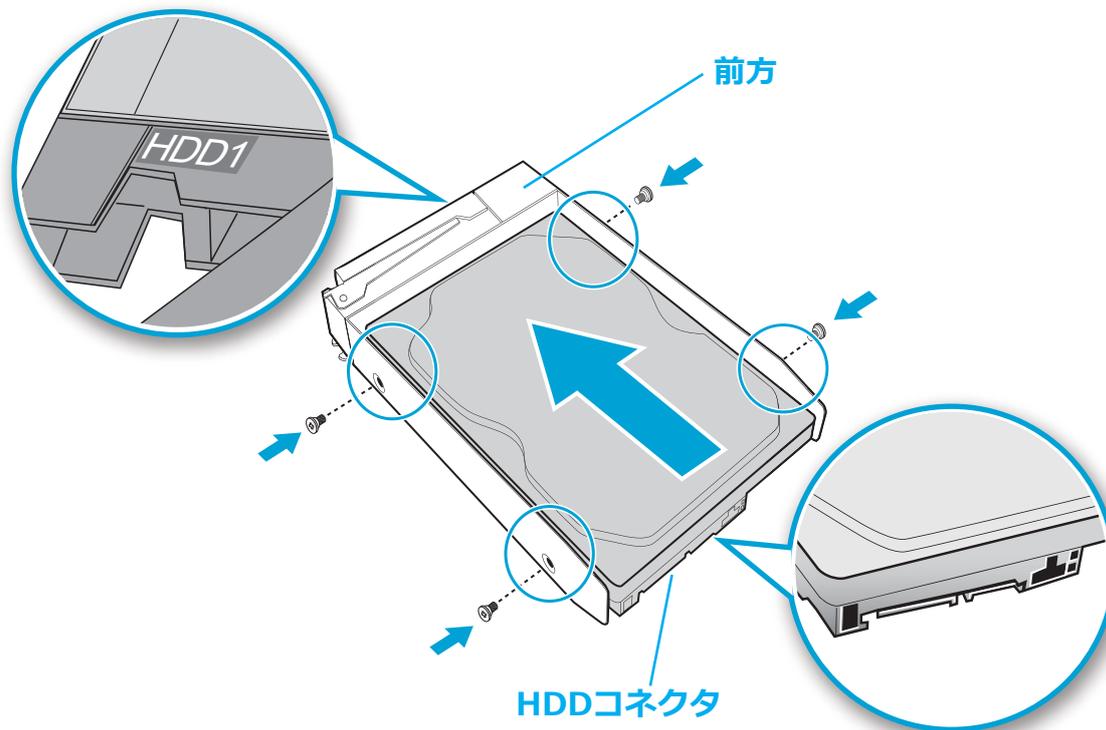


HDD1 トレーの取り外し

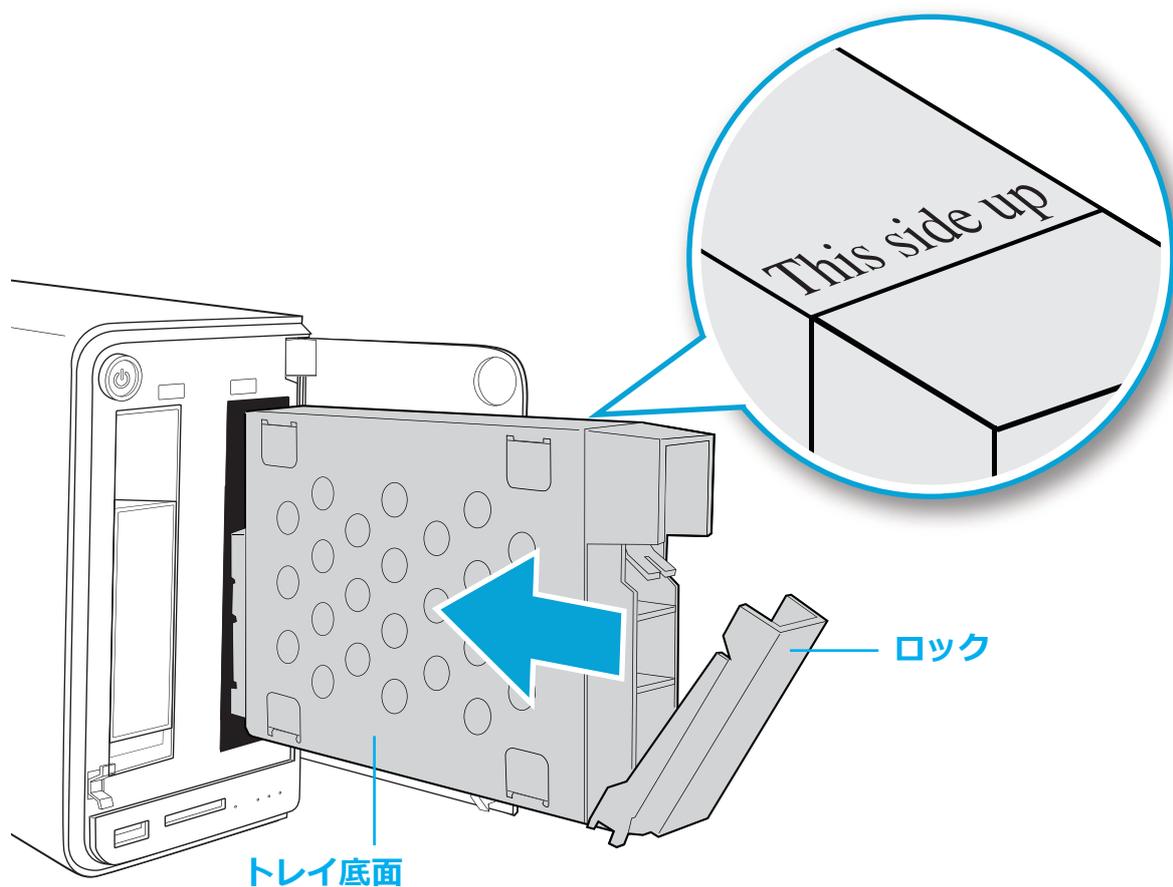
6. 取り出したトレイは、綺麗で安定した場所に置いてください。
7. HDDは図の通り、決められた向き方向で搭載します。特にHDDコネクタの向きが合っているか図を参考に確認してください。

HDDの取り付け

8. 新しいHDD をトレイに設置します。
9. 付属のネジを使用して固定します。

**HDD をネジで固定する**

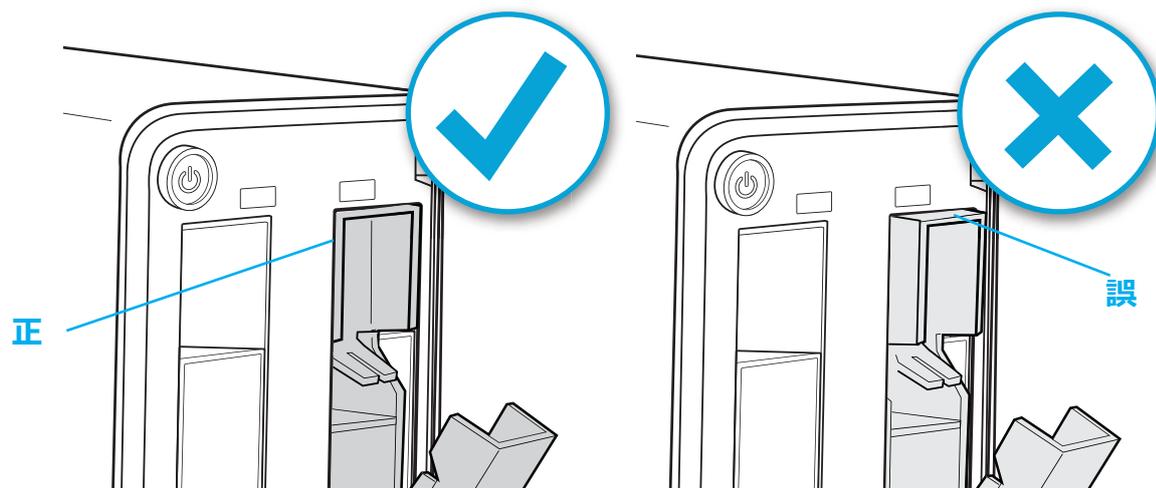
10. HDD トレイの向きは“*This side up*” 表示が上に来るようにして下さい。
11. HDD トレイを最後までしっかり差し入れます。



HDD トレイを差し入れる

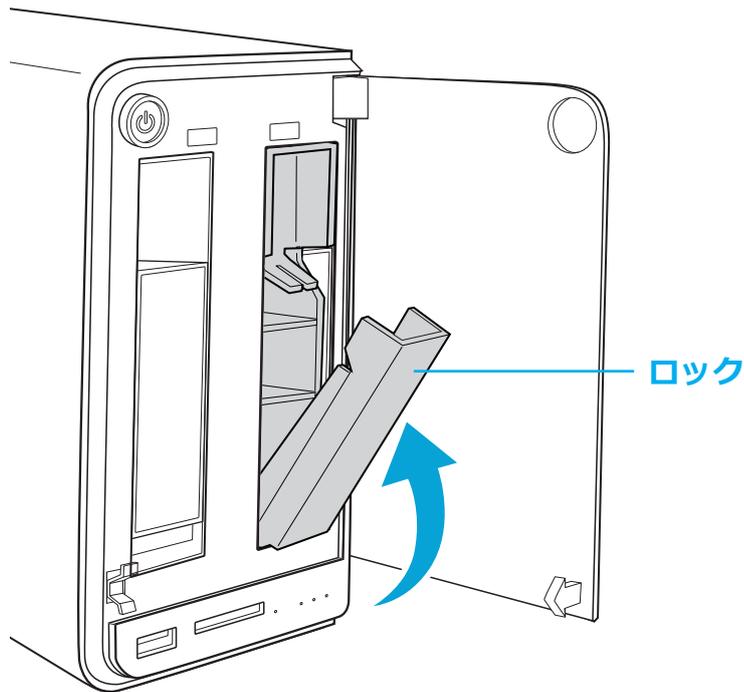
WARNING:

HDD トレイを差し入れる際、
図の通りしっかりと最後まで入っている事を確認して下さい。



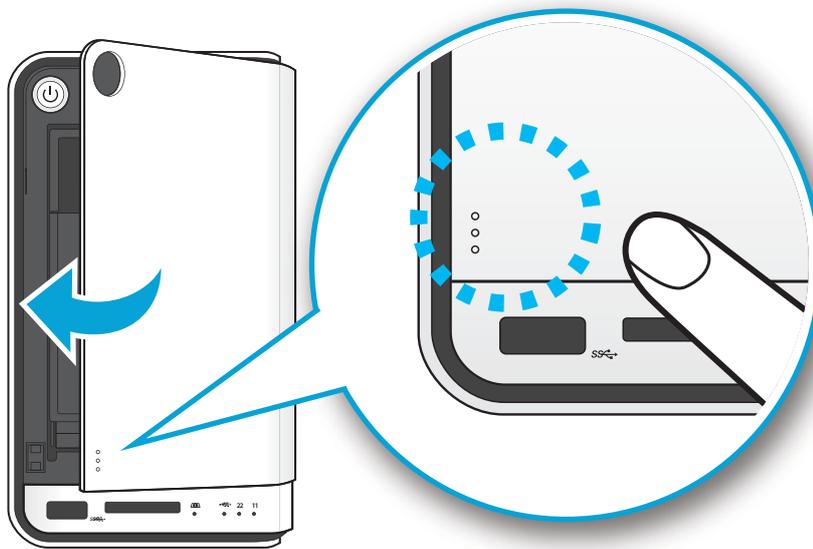
HDD トレイ完了位置

12. カチッと鳴るまでロックを引き上げてHDD トレイをロックします。



HDD トレイをロックする

13. ベイカバーを閉じます。



HDD ベイカバーを閉じる

14. 2台目のHDD を搭載する際も、システム構築前に同様の手順を進めます。
すでにローカルエリアネットワーク(LAN)に接続できる環境であれば、
LANケーブルが接続されていることを確認し、次の項へ進んでください。

OMNINAS に接続する

ネットワークに接続する

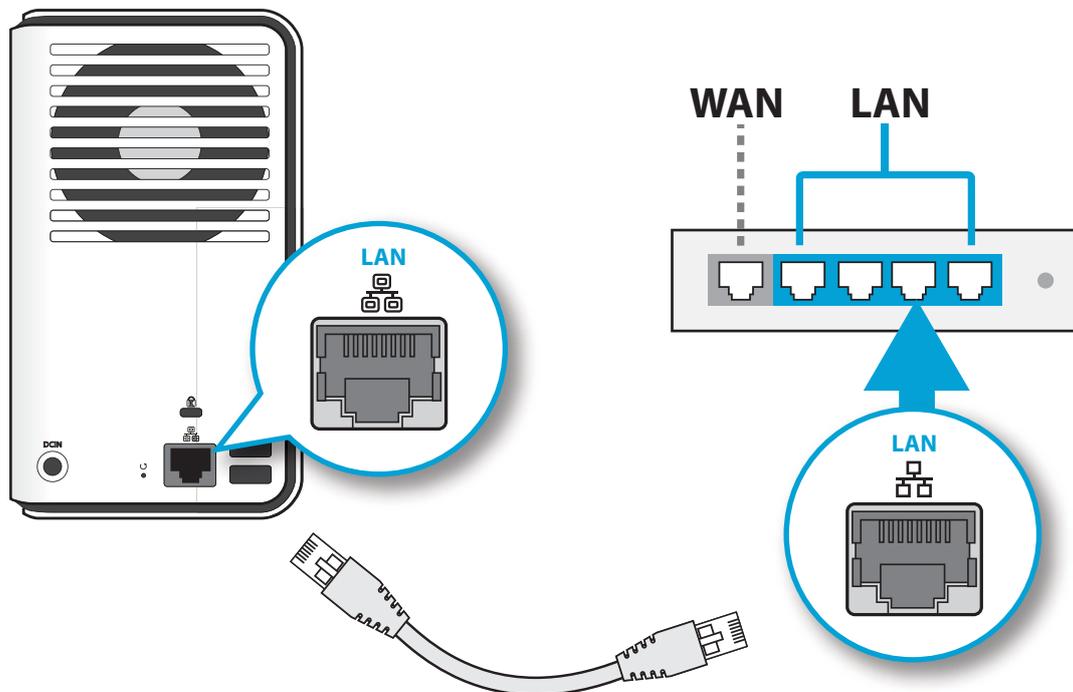
OMNINAS はご利用前に初期設定を行う必要があります。

対応している接続方法は大きく2 つです。

- デスクトップPC/ ノートPC から直接OMNINAS へ接続
- スイッチングハブ/ ルーターを経由してOMNINAS へ接続

ルーター / スイッチングハブを経由して接続する

1. OMNINAS へLAN ケーブルを接続します。
2. 反対側のLAN ケーブルをDHCP機能が有効になっているルーターへ接続します。



ルーターへの接続

OMNINAS の電源を入れる準備ができました。

電源を入れる方法は”電源アダプタを接続する”を参照ください

PCから直接OMNINASに接続する

1. デスクトップPC/ノートPCのIPアドレス設定をOMNINASと同じサブネットに合わせるよう設定します。

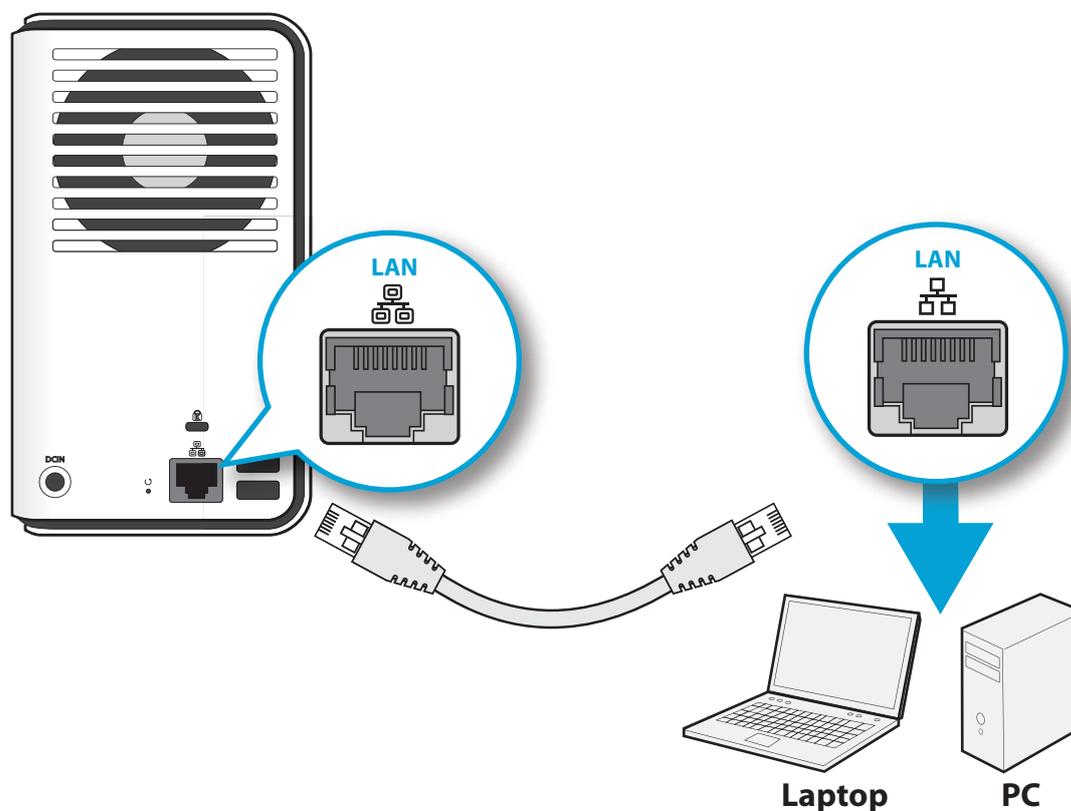
例:

OMNINAS初期IPアドレス設定: 192.254.100. 200

使用のパソコンにも同様の設定をします。: 192.254.100. XXX

(xxx には1 ~ 254 を設定します。200 は不可)

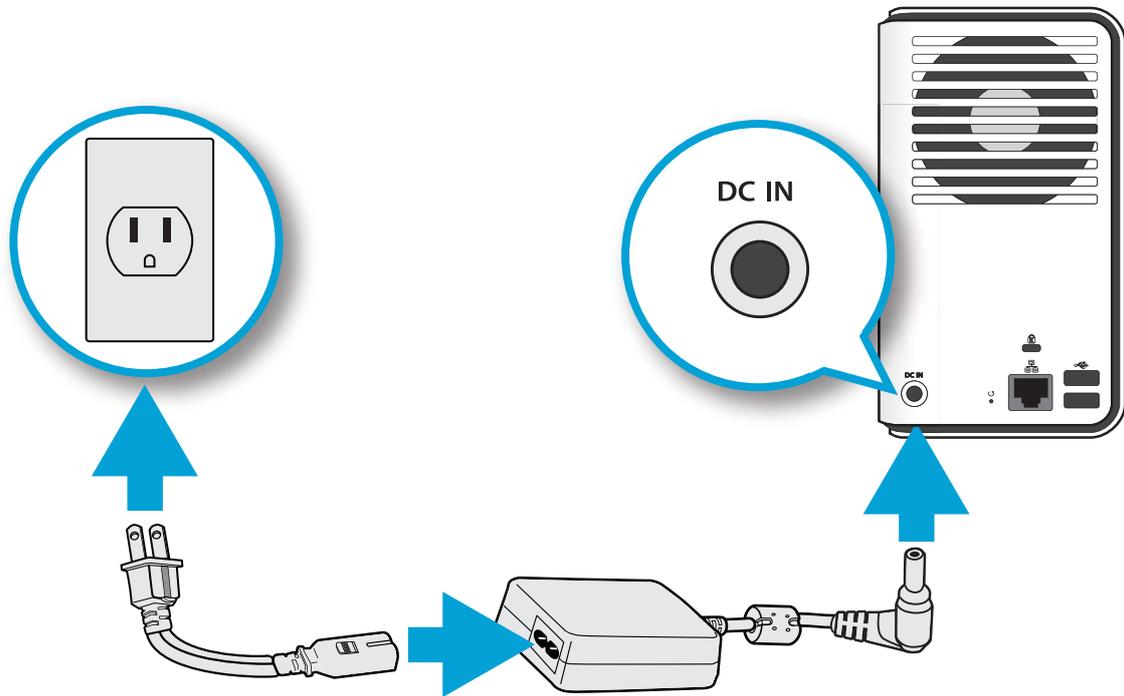
2. OMNINAS へLAN ケーブルを接続します。
3. 反対側をご利用の PC へ接続します。



デスクトップPC/ ノートPC への接続

電源アダプタを接続する

1. 電源ジャックをOMNINAS背面の(DC IN)に接続します。
2. ACアダプターに電源ケーブルを接続し、コンセントに接続します。



電源アダプタを接続する

Note:

図に出ているコンセントの形状は、お使いの国/ 地域によって違います。

電源を入れる準備ができましたら”電源を入れる”を参照

注意:

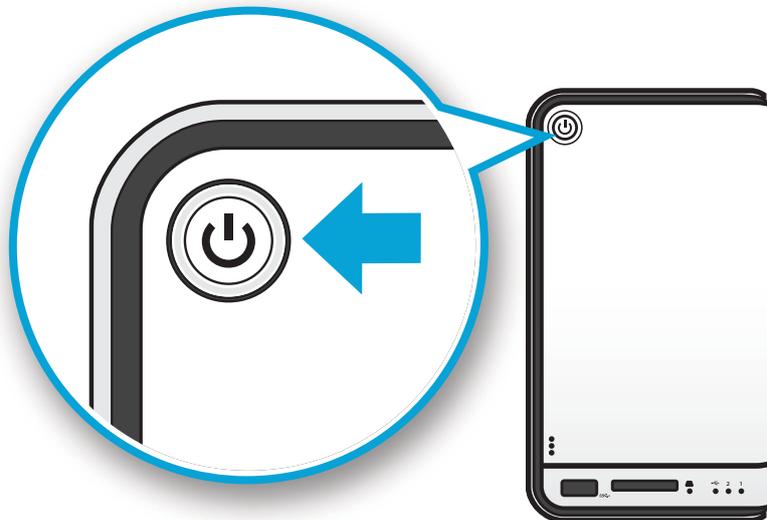
必ず付属されているACアダプタと電源ケーブルをご利用下さい。付属されているもの以外を使用すると故障の原因になります。

Note:

ご使用の際、ACアダプタはかなり熱くなりますので、ご注意ください。

電源を入れる

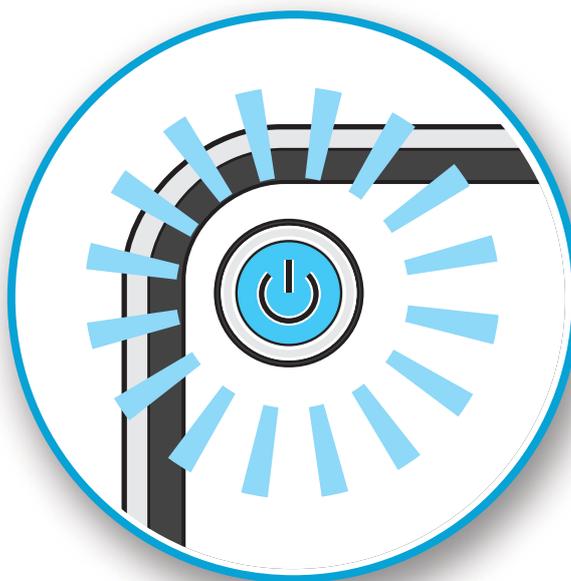
- ☺ ボタンを押し、電源を入れます。LED が点滅を開始します。起動が完了するまで、約 1～2 分かかります。



電源ボタンを押す

LED が点滅しているのは、システムの起動中を知らせる合図です。LED が点灯状態の場合はOMNINAS がDHCP 有効のルーターからIP アドレス取得が完了した事を意味します。“LED 役割” 参照

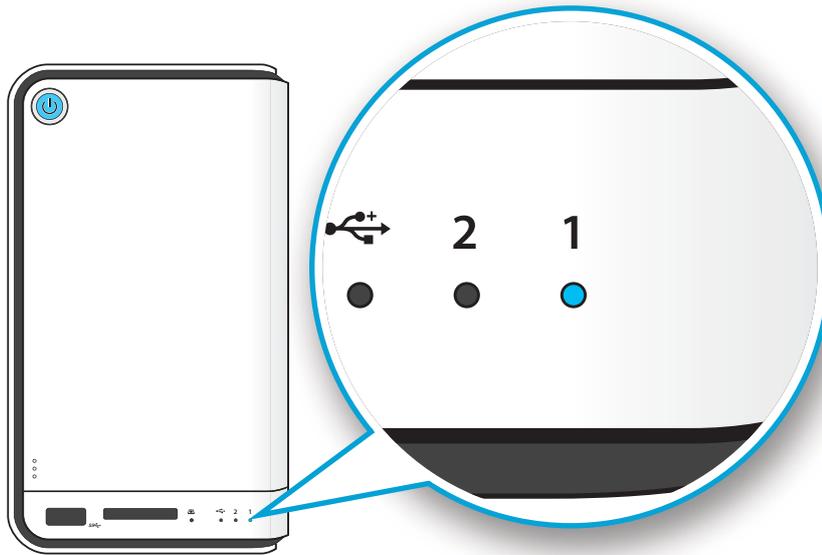
LED が赤色に点滅している場合は、ルーターからのIP アドレス取得に失敗した事を意味します。システムは初期IP アドレス設定に戻ります。(169.254.100.200).



起動時のLED ディスプレイ

OMNINAS に接続する

HDD LED は搭載されたHDD の状態を示すものです。“LED 役割” 参照



HDD LED

Note:

搭載されているHDD に問題が発生するとHDD LED は赤く点滅します。
加えてユーティリティ画面に電源オフのメッセージが表示されます。

HDD does not exist, please power off the system and plug in HDD first.

Shutdown

HDD エラー時の 管理画面表示

OMNINAS の準備ができましたら、ユーティリティを使用して接続して下さい。

OMNINASに接続する

HDDの搭載とネットワークへの接続が完了後、HDDをどのモードで運用するか初期設定をする必要があります。

OMNINAS への接続はFinder ユーティリティを使えば簡単に行えます。

一度検出されるとドメイン名、IPv4 アドレス、Mac アドレス、
ファームウェアバージョンなどOMNINAS の持つ情報を確認する事ができます。

ユーティリティは下記よりダウンロードする事ができます。

<http://global.shuttle.com/download/download>

Note:

Linux ユーザーは、Finderユーティリティからではなく
WEBブラウザからOMNINASに接続する必要があります。

ユーティリティを利用して接続する



OMNINAS Finder ユーティリティ

Finder ユーティリティ

モード	内容
OMNINASを 検索	同じネットワーク内に存在するKD20を検出します。
OMNINASへ	クリックすると、ログイン画面に進みます。お使いのブラウザにログイン画面が表示されます。
ネットワークド ライブの割り 当て	クリックするとOMNINASに存在するフォルダーへのショートカットがマイコン ピューターに作成されます。ドライブレターが割り当てられますので、エクスプ ローラーから簡単にアクセスできるようになります。 ※OMNINASのIPアドレスが変わると接続できなくなりますのでご注意ください
ネットワークド ライブを削除	クリックすると上記で作成したショートカットを削除できます
情報	OMNINAS Finder ユーティリティの情報が確認できます。
ヘルプ	ブラウザよりOMNINAS ヘルプを確認できます。
終了	OMNINAS Finder ユーティリティを終了します。 .

OMNINAS Finderを使用することにより、同一サブネット内のOMNINASを自動検出することができます。

WEBブラウザに直接OMNINASのIPアドレスを入力することで管理画面を表示させることも可能ですが、OMNINAS Finderを使用することを推奨します。

システム設定

Linuxユーザーは、"Webブラウザから接続する"を参照してください。

WindowsとMacユーザーは、セットアップ処理を実行するために以下の手順に従って下さい。

1. OMNINASに付属ディスクを、PCのドライブに挿入し、読み込みます。

Note:

Windows 7では、下記のウィンドウが表示されますので、そのまま「OMNINAS Finder.exe を実行」を選択して下さい。



Windows 7 自動実行ウィンドウ

Note:

選択した言語が、お使いのパソコンに対応していない場合、初期言語設定である英語で表示されます。

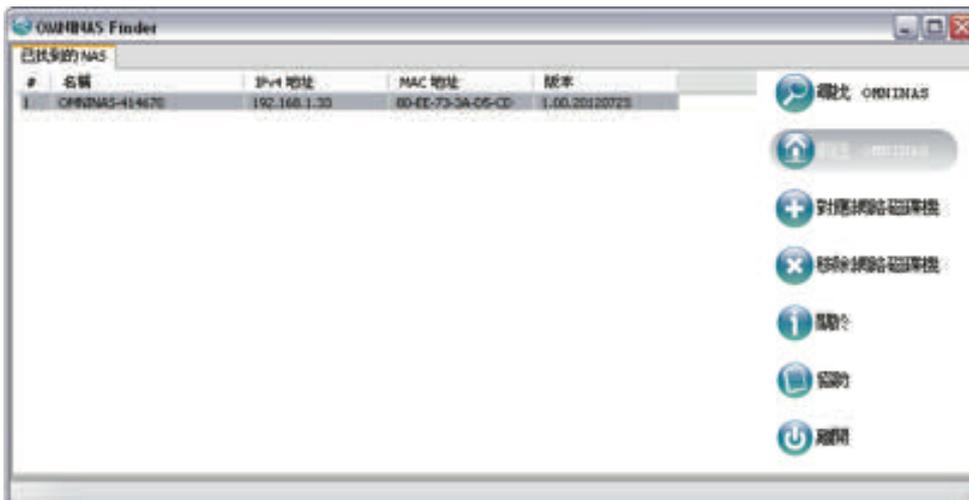
ネットワーク上で検出された OMNINAS 機器が画面上に表示されます。

もし自動検出で見つからない場合は、“OMNINAS を検索” を押して手動で検索する事ができます。



OMNINAS Finder ユーティリティ検索機能

- 検出された後は、設定したいOMNINAS機器を選択し“OMNINASへ” をクリックします。



Finder ユーティリティ接続機能

Note:

以下の初期画面は、新規でHDD搭載時/未フォーマットのHDD搭載時に表示されます。

- OMNINAS ウィザードがブラウザで表示されます。以下の手順に従ってください (Step1~7)。



OMNINAS ウィザードへようこそ

IMPORTANT:

この作業は、HDD 内のすべてのデータを削除する事になります。
 またOMNINAS の電源がしっかり接続されている事を確認してください。
 作業実行中に電源が落ちるとシステムが損壊する可能性があります。



ステップ 1.言語とタイムゾーン



ステップ 2.管理者アカウント



ステップ 3.OMNINASを作成



ステップ 4.メディアファイルの共有



ステップ 5.RAID ディスクの作成

Note:

構築に要する時間は、RAID タイプや搭載しているHDD の容量に依存します。

構築中はLED が点滅し続けます。



ステップ6.ユーザーアカウントの作成



ステップ7.完了

Webブラウザから接続する

初期設定後は、インターフェイスのメニューを通して、OMNINASを管理することができます。管理メニューへの接続は、FinderユーティリティまたはWebブラウザを介して直接アクセスできます。二つの方法は、以下に限定されています。

Finderユーティリティを使用して接続--Windows、Macユーザー

Webブラウザを介して接続 -- Windows、Mac、Linuxユーザー

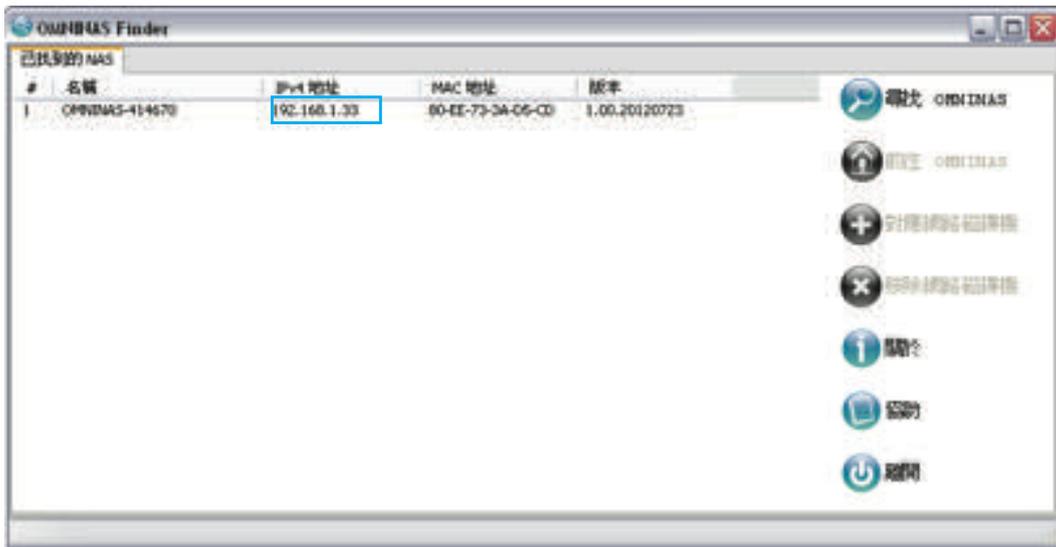
Finderユーティリティから接続する

Windows、MacユーザーはFinderユーティリティ利用できます。

1. スイッチングハブまたはルータに接続してNASへ接続します。
2. IPアドレスを取得するためにFinderユーティリティを使用します。次のページを参照。

Note:

選択した言語が、お使いのパソコンに対応していない場合、初期言語設定である英語で表示されます。言語を設定した後、OMNINAS Finder の画面に表示します。



初期 IP アドレス

Webブラウザが開きアドレスバーにIPアドレスを入力します。ログイン画面が表示されます。



Finderユーティリティを使用した接続

3. ユーザー名、パスワードを入力してログインします。

初期設定

ユーザー名: admin

パスワード: *****

Note:

HDD が搭載されていない場合、システムOMNINAS ウィザードが表示されます。

継続する前に、HDD を搭載して下さい。

Webブラウザから接続する

WEBブラウザから直接接続するには、IPアドレス設定をOMNINASと同じサブネットに合わせる必要があります。PCから直接OMNINASに接続する参照。

OMNINAS 初期 IP アドレス: 169.254.100.200

Note:

OMNINAS がDHCP を使用しない場合、初期アドレスは http://169.254.100.200 となります。またOMNINAS とコンピューターが同じネットワーク内にあることを確認して下さい。

HDD が搭載されていない場合、システムOMNINAS ウィザードが表示されます。

継続する前に、HDD を搭載して下さい。

1. 直接PCからOMNINASに接続します。
2. WEBブラウザが開きます。
3. アドレスバーにOMNINASの初期IPアドレスを入力します。



WEBブラウザ接続画面

4. ユーザー名、パスワードを入力してログインします。

初期設定

ユーザー名: admin

パスワード: *****

Note:

OMNINAS がDHCP を使用しない場合、初期アドレスは http://169.254.100.200 となります。

またOMNINAS とコンピューターが同じネットワーク内にあることを確認して下さい。

HDD が搭載されていない場合、システムOMNINAS ウィザードが表示されます。

継続する前に、HDD を搭載して下さい。

ネットワークドライブの割り当て

Windowsのネットワーク上で、OMNINASフォルダにアクセスできるショートカットを作成できます。お使いのPCがWindows エクスプローラーから簡単にアクセスできます。

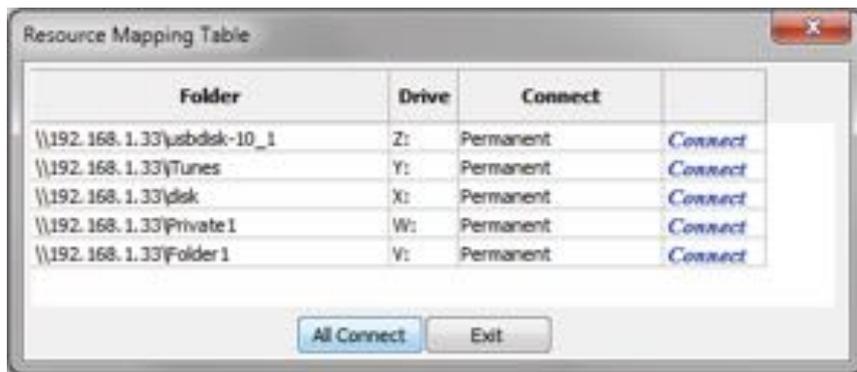
ショートカットを作成する方法は2つあります。一度に全ての使用可能なドライブの割り当てをするか、選択した個々のドライブの割り当てをするという方法があります。また、ドライブを割り当てるにはOMNINASデバイスが初期化されている必要があります。システム設定を参照



ネットワークドライブの割り当て

全てを割り当てる

1. OMNINAS FinderからNASデバイスを選択して下さい。
2. ネットワークドライブ割り当てをクリックして下さい。
リソース割り当て詳細が表示されます。リストには使用可能なOMNINASフォルダ、ドライブ文字、接続方式があります。
3. ドライブのプルダウンメニューをクリックして、ドライブレターを選択して下さい。
4. ドライブのプルダウンメニューをクリックして、接続方式を選択して下さい。



すべてのフォルダを割り当てる

5. 使用可能なフォルダをすべて設定し、全部繋げるをクリックして下さい。

フォルダが正常にコンピュータに割り当てられると、フォルダの状態（リソース割り当て）が表示されます。

6. 割り当てられたフォルダにアクセスするためには、ショーカットを介して、ドライブを開きます。

Name	Type	Total Size	Free Space
Hard Disk Drives			
Segate-OS (C:)	Local Disk	135 GB	88.8 GB
Segate-programs (D:)	Local Disk	270 GB	187 GB
original-os (E:)	Local Disk	76.3 GB	48.8 GB
NTC_Archived (F:)	Local Disk	116 GB	56.4 GB
Drive (O:)	Local Disk	99.9 MB	46.2 MB
Main Programs (P:)	Local Disk	416 GB	40.3 GB
Network Location			
iTunes (\\192.168.1.33) (T:)	Network Drive	454 GB	348 GB

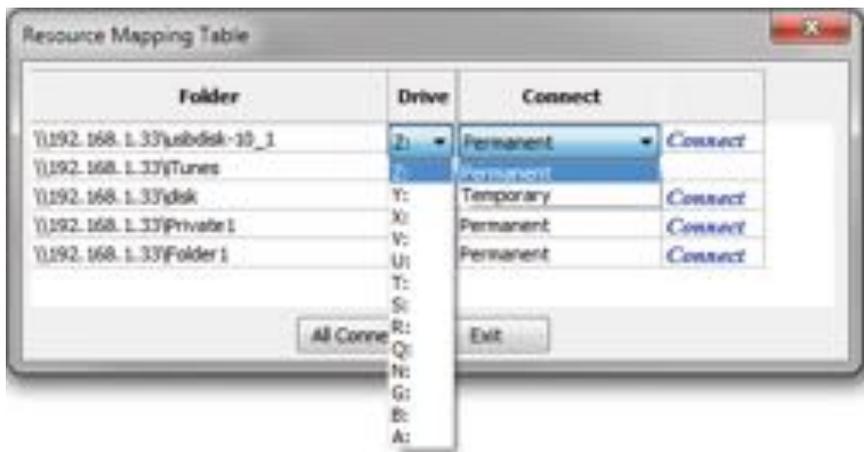
個々のドライブの割り当て

Note:

ネットワークが、ドメイン・サーバー下にある際にフォルダを割り当てるには、ネットワークへのアクセス権限を必要とする場合があります。

個々のドライブの割り当て

1. OMNINAS FinderからNASデバイスを選択して下さい。
2. ネットワークドライブ割り当てをクリックして下さい。
リソース割り当て詳細が表示されます。リストには使用可能なOMNINASフォルダ、ドライブ文字、接続方式があります。
3. ドライブのプルダウンメニューをクリックして、ドライブレターを選択して下さい。



個々のドライブの割り当て

4. ドライブのプルダウンメニューをクリックして、接続方式を選択して下さい。
5. ショートカットを作成するために繋げるをクリックして下さい。
6. 割り当てられたフォルダにアクセスするためには、ショートカットを介して、ドライブを開きます。

Name	Type	Total Size	Free Space
Hard Disk Drives			
Segate-05 (C:)	Local Disk	195 GB	88.8 GB
Segate-programs (D:)	Local Disk	270 GB	137 GB
original-os (E:)	Local Disk	76.3 GB	48.8 GB
NTC_Archived (I:)	Local Disk	116 GB	56.4 GB
Drive (O:)	Local Disk	99.9 MB	46.2 MB
Main Programs (P:)	Local Disk	416 GB	40.3 GB
Network Location			
iTunes (\\192.168.1.33) (T:)	Network Drive	464 GB	348 GB

個々のドライブの割り当て

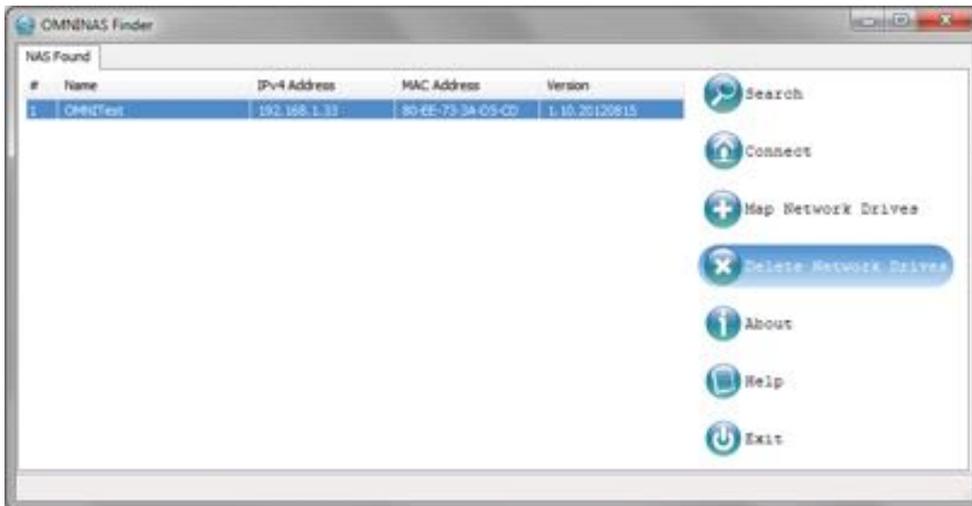
Note:

ネットワークが、ドメイン・サーバーにある場合、内部のフォルダを割り当てることは、ネットワークへのアクセス権限を必要とするかもしれません。

ネットワークドライブの削除

削除機能は、すでに割り当てられたネットワークドライブを解除することができます。ショートカットの削除を確認するためにドライブに関連付けられている全てのフォルダを閉じます。

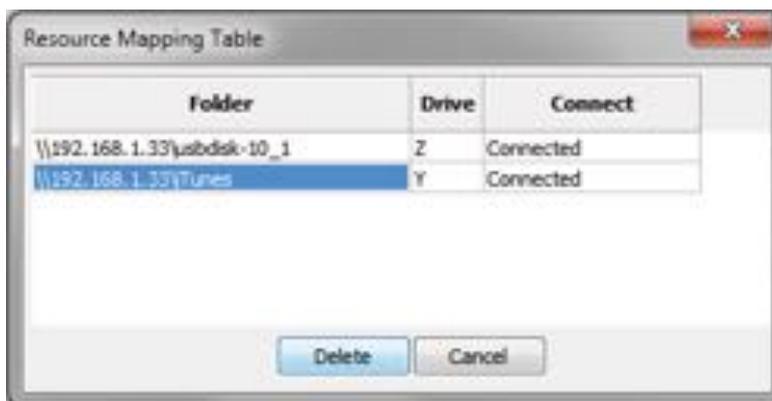
1. OMNINAS FinderからNASデバイスを選択して下さい。
2. ネットワークドライブの削除をクリック



全てのフォルダの割り当て

リソース割り当て詳細が表示されます。リストには使用可能なOMNINASフォルダ、ドライブ文字、接続方式があります。

3. 割り当てないフォルダを選択して、削除をクリックして下さい。



個々のドライブの割り当て

ネットワークから割り当てられたドライブが削除されます。

Note:

開いたままの割り当てられたフォルダは、割り当てられたドライブの削除を妨げます。ドライブの削除のためにエクスプローラとiTunesのウィンドウを閉じます。

Chapter 3

ウェブ管理画面

概要

OMNINAS Web 管理画面では、Web ブラウザ上から各種設定が行えます。設定には、ストレージ、共有、USB、バックアップ、BTダウンロード、外部からの接続、メディアサービスが含まれます。ネットワークの中でも外でも、設定を行う事ができます。

ホーム



管理者ホーム画面

ホームメニュー

アイコン	名称	説明
	設定	iTunes Server、ネットワーク、日時、一般設定、ログ、工場出荷時に戻す、ファームウェアの更新
	ストレージ	自動ミラーリング、ディスク管理、RAID管理
	共有	フォルダの追加、フォルダー一覧、ユーザーの追加、ユーザー一覧
	USB	プリンタ設定、自動コピー。
	バックアップ	バックアップログ、バックアップ設定、バックアップ設定一覧
	BTダウンロード	BTダウンロード、BTダウンロード設定 Note : BTダウンロードとメディアサーバーを同時利用する事はできません。どちらかを有効にする為には、片方を無効にする必要があります。
	共有ボックス	共有ボックス機能の有効/無効設定 [ホストネーム].ominas.net からのファイル共有

アイコン	名称	説明
	メディアサーバー	メディアサーバー機能の有効/無効設定 iTunes serverを使用するにはメディアサーバーを有効にする必要があります。 Note : BTダウンロードとメディアサーバーを同時利用する事はできません。 どちらかを有効にする為には、片方を無効にする必要があります。
	再起動	システムの再起動 Note : 作業中の場合、完了後に再起動となります。
	シャットダウン	OMNINASの電源を切ります
	Logout	管理画面からログアウトします

設定

ここでは次の操作・設定が可能です。

iTunes Server、ネットワーク、日時、一般、情報、ログ、工場出荷時に戻す、ファームウェアアップデート



設定メニュー

設定メニュー

アイコン	名称	説明
	iTunes サーバー	iTunes サーバーの有効/無効設定 iTunes アプリケーションからアクセスが可能になります。.
	ネットワーク設定	機器名、ワークグループ名の設定 DHCPもしくはIP アドレスの手動設定
	日時	タイムゾーン、ネットワークタイム、ブラウザと同期 Note : 電源アダプタを抜くとシステム時刻はリセットされます。
	一般設定	管理者パスワード、省電力時間
	情報	OMNINASの設定情報（表示のみ） Note: 管理者アカウントのユーザ名を編集することはできません。
	ログ	ログの表示、ログの削除。

アイコン	名称	説明
	工場出荷時設定	OMNINAS を工場出荷時の状態に戻す。 Important : すべてのデータと設定は削除されます。
	ファームウェアの更新	ファームウェアアップデート
	ホーム	ホームに戻る
	ログアウト	管理画面からログアウトします

ストレージ設定



ストレージ設定

ストレージ設定

アイコン	名称	説明
	自動ミラーリング	使用中のRAIDモードを表示 自動ミラーリング機能の有効/無効設定 (RAID1 時のみ)
	ディスク管理	内蔵/外付けストレージの情報を表示 (動作状況、エラー、ミラーリング、外付けストレージの接続/切断) ディスク容量の表示 スキャン、修復、ディスクフォーマット
	RAID管理	RAIDモードの設定 : シングル、JBOD、RAID0、RAID1 Note : RAID1のみ自動ミラーリング機能対応 Note : シングルモードは内蔵HDDが1台の時のみ選択可能

アイコン	名称	説明
	ホーム	ホームへ戻る
	ログアウト	管理画面からログアウトします

共有

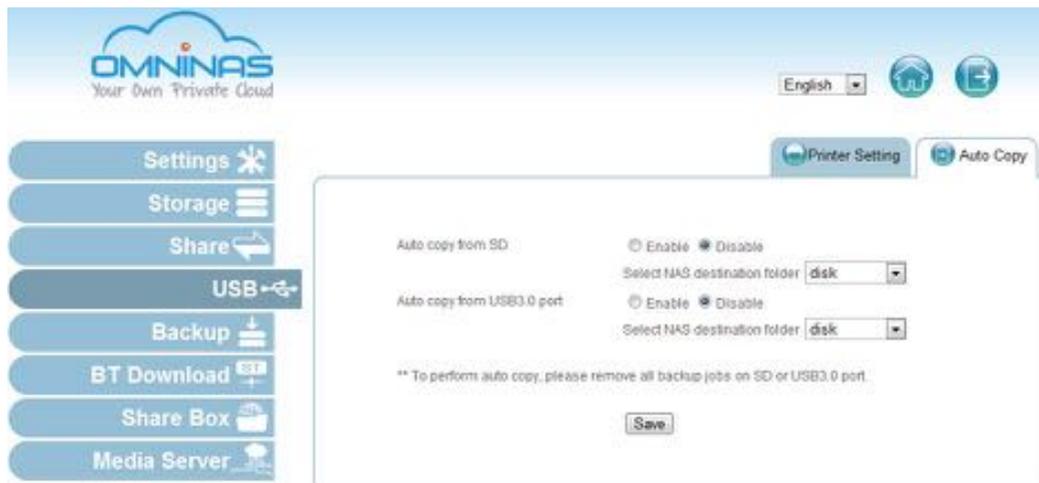


共有設定

共有設定

アイコン	名称	名称
	フォルダー追加	公開フォルダ/プライベートフォルダを追加します
	フォルダリスト	フォルダ一覧表示、作成フォルダ/初期フォルダの編集、削除
	ユーザー追加	ユーザープロファイルの追加
	ユーザーリスト	ユーザー一覧表示、ユーザープロファイルの編集/削除 Note : 管理者アカウントは削除できません。パスワードは「一般設定」で変更可能です
	ホーム	ホームに戻る
	ログアウト	管理画面からログアウトします

USB



USB 設定

USB設定

アイコン	名称	説明
	プリンタ設定	接続中のプリンター状態を表示します
	自動コピー	SDカード/USB機器から自動コピー機能の有効/無効設定 Note : 自動コピーはUSBポート1(前面)のみ対応
	ホーム	ホームに戻る
	ログアウト	管理画面からログアウトします

バックアップ



バックアップ設定

バックアップ設定

アイコン	名称	説明
	バックアップログ	バックアップの履歴を表示
	バックアップ設定リスト	作成されたバックアップ設定をリスト表示
	バックアップ設定	<p>選択されたフォルダを外付けストレージ/別機器へバックアップ、及びバックアップスケジュールの設定</p> <p>Note: バックアップ設定は順に実行されます。すぐに実行よりスケジュール設定が優先されます。バックアップの設定は、スケジュール設定が完了された後に実行されます。</p>
	ホーム	ホームに戻る
	ログアウト	管理画面からログアウトします

BT ダウンロード設定



BT ダウンロード設定

BT ダウンロード設定

アイコン	名称	説明
	BT設定	BTダウンロード機能の有効/無効の設定 一般設定からは、常時ダウンロード/日時を限定したダウンロードを設定する事ができます。 Note : BTダウンロード機能とメディアサーバー機能は、同時使用する事はできません。どちらかを無効にする必要があります。
	BTダウンロード	アップロードするファイルの選択、詳細設定、ダウンロード/アップロードの比率、ダウンロードの手動操作
	ホーム	ホーム画面に戻る
	ログアウト	管理画面からログアウトします

共有ボックス



共有ボックス設定

共有ボックス設定

アイコン	名称	説明
	共有ボックス設定	omninas.net を経由した外部接続を有効/無効 Note : 標準設定のポート番号は、ファイアウォールやセキュリティソフトの影響を受けにくい推奨設定です。
	ホーム	ホーム画面に戻る
	ログアウト	管理画面からログアウトします

メディアサーバー



メディアサーバー設定

メディアサーバー設定

アイコン	名称	説明
	メディアサーバー	メディアサーバー機能の有効/無効 iTunesサーバーを利用時は、有効にしておく必要があります。 Note: BTダウンロード機能は、メディアサーバー機能と同時に使用する事はできません。どちらかを無効にする必要があります。
	ホーム	ホーム画面に戻る
	ログアウト	管理画面からログアウトします

管理画面を表示する

OMNINAS Web 管理画面は、OMNINAS FinderもしくはWeb ブラウザを使用してアクセスする事ができます。

OMNINAS Finderユーティリティーを使用→”ユーティリティーを利用して接続する”を参照

ブラウザを使用→”ウェブブラウザから接続する”を参照

ログイン

ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。

初期設定は、ユーザー名 : admin パスワード : (無し) です。

Note:

プルダウンメニューよりご希望の言語を選択する事ができます。

ログインするには:



OMNINAS ログイン画面

1. ユーザー名とパスワードを入力します。

初期設定

ユーザー名: admin

パスワード: (無し)

Note:

一般設定の画面でパスワードを設定しない限り、パスワードはありません。

2. ログイン  をクリックし管理画面に入ります。

IMPORTANT:

パスワードを忘れてしまった場合、"マイアカウントに接続できませんか?"よりリセット作業を行えます。

10分以上操作しない場合、自動的にログアウトされます。

ユーザー管理

ユーザーアカウント管理について、ユーザーリストからの追加/編集/削除の方法を説明します。

ユーザーリストを確認する

ユーザープロフィールを確認、編集、削除をユーザーリストから行えます。



ユーザーリスト画面

下記のユーザーは初期から登録されています:

admin: 管理者アカウントは、すべての操作が可能です。このアカウントを削除する事はできません。(非表示)

ユーザーの追加

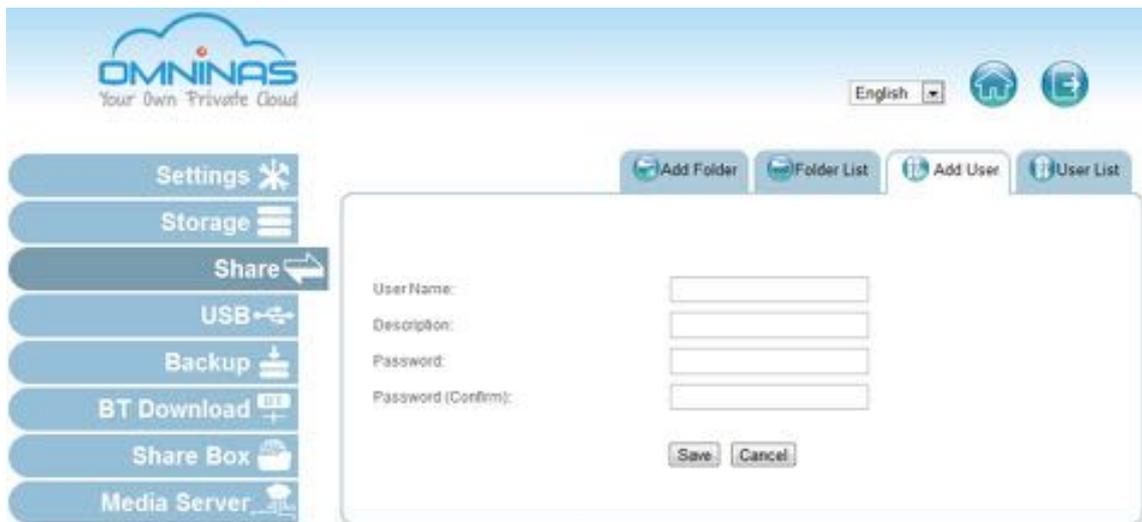
ユーザーを追加する場合は、下記に従って下さい:

ユーザー名: 半角英数32文字以下で設定する必要があります。

日本語、中国語、韓国語のような2バイト文字、記号は使用できません。

使用できない記号: " / ¥ [] : ; | = , + * ? < > ` '

パスワード: 使用できる文字数は16文字までです。最低でも6文字以上を推奨します。



The screenshot shows the OMNINAS web management interface. The top navigation bar includes the OMNINAS logo, a language dropdown set to 'English', and home and refresh icons. A left sidebar contains menu items: Settings, Storage, Share (highlighted), USB, Backup, BT Download, Share Box, and Media Server. The main content area has tabs for 'Add Folder', 'Folder List', 'Add User', and 'User List'. The 'Add User' form contains the following fields: 'User Name' (empty), 'Description' (empty), 'Password' (empty), and 'Password (Confirm)' (empty). 'Save' and 'Cancel' buttons are at the bottom.

ユーザー追加画面

1. ユーザー追加をクリックします。
2. 必要な情報を入力し、保存をクリックします。
保存されると画面はユーザーリスト画面に戻ります。
リストの中に新しいユーザーが表示されます。



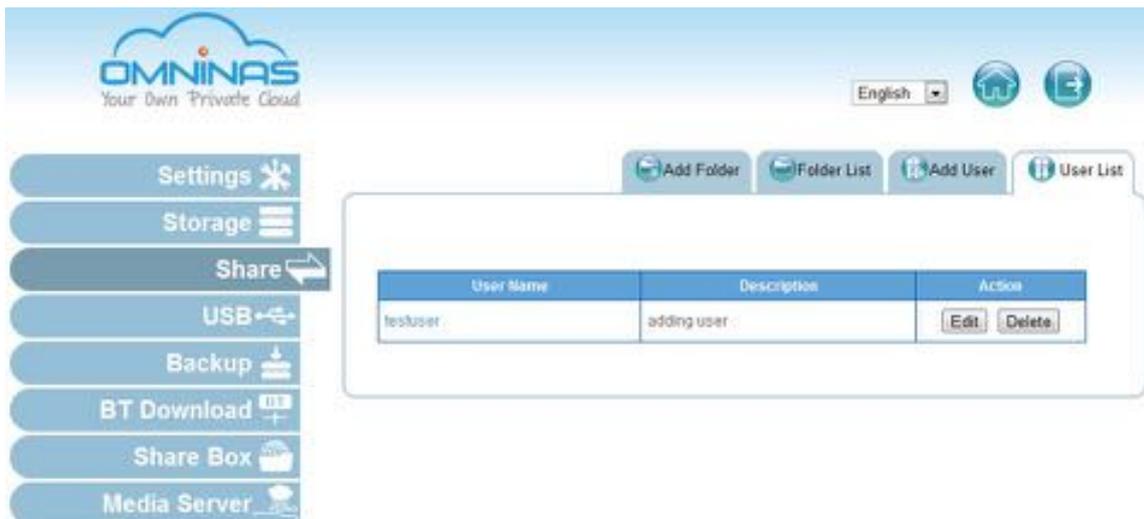
This screenshot shows the 'Add User' form with the following data entered: 'User Name' is 'testuser', 'Description' is 'adding user', 'Password' is masked with '****', and 'Password (Confirm)' is also masked with '****'. The 'Save' and 'Cancel' buttons are visible at the bottom.

ユーザー追加画面

Note:

ユーザーが管理者権限を持つ事はできません。

ユーザーの編集



ユーザーの編集

1. ユーザーリストより、登録されているユーザーを確認します。
2. 任意のユーザーを選択し編集をクリックします。画面が変わり編集画面に進みます。
3. 保存を押して完了するか、キャンセルを押して戻ります。

Note:

ユーザー名は変更できません。

ユーザーの削除



ユーザーの削除

1. ユーザーリストより、登録されているユーザーを確認します。
2. 任意のユーザーを選択し削除をクリックします。
確認画面が現れます。
3. OK を押して削除するか、キャンセルを押してユーザーリストに戻ります。

ストレージ管理

RAID 管理

ストレージ管理では、RAID管理、ディスク管理、自動ミラーリング、RAIDアレイ変更などの管理と設定を行う事ができます。



ストレージ管理画面

RAID タイプ

RAID タイプ

モード	説明
シングル (Single)	HDDをで動作させます。(搭載HDDが1台の時のみ設定することができます) ディスク故障時はデータがすべて消失します。
スパニング (JBOD)	2つのHDDを連結し1つのHDDとして動作させます。 容量は2台の総計となりますが、どちらかのHDDが故障すると全てのデータが消失するため、危険性はシングルモードより高くなります。 Note: 同じ容量のHDD2台を使用する場合、RAID0を推奨します。
ストライピング (RAID 0)	2つのHDDで分担処理させる事で処理の高速化が期待できます。 容量は、どちらか少ない方のHDD容量の2倍に設定され、どちらかのHDDが故障すると全てのデータが消失します。 IMPORTANT: どちらかのHDD が壊れると、すべてのデータが消失してしまいます。
ミラーリング (RAID 1)	同じ内容のデータを2つのHDD両方に保存していきます。 もしどちらかのHDDが破損しても、もう片方にデータが残されている為、データの消失を回避する事ができます。 しかし、両方にデータを保存する為、容量はいずれかのHDD容量の少ない方に合わせられます。

IMPORTANT:

RAIDタイプを変更する場合、保存されているデータはすべて消されます。
変更する前に、保存されているデータのバックアップを取ってください。

IMPORTANT:

RAID1のみホットスワップ機能に対応しています。
他のモードで運用している場合、電源を切ってからHDDを交換して下さい。

ディスク管理では、HDDの型番、容量、状態を確認をする事ができます。

さらに健康状態の確認、削除、検査、フォーマット、取り外しが実行できます。

RAIDモード

IMPORTANT:

RAIDタイプを変更する場合、保存されているデータはすべて消されます。
変更する前に、保存されているデータのバックアップを取ってください。

シングルディスクで動作中の場合は、一度電源を落とし、HDD を設置してから再度電源を入れて下さい。

CAUTION:

シングルモード動作中に2台目のHDD を設置する事は推奨されません。

用意するもの:

- Single: HDDを1台だけ搭載してください。2台搭載するとSingleは選択できません。
 - JBOD, RAID 0, RAID 1: HDDを2台搭載する必要があります
ストレージを選択しRAID 管理をクリックします。
可能なRAID モードの上に、現在のRAID モードが表示されます。
4. RAID モードをクリックします。“RAID モード” 参照
 5. 実行をクリックします。



RAID モード画面

6. 確認画面が出ますのでOK を押して続行します。
7. RAID 構築の確認画面が出ますのでOKを押して実行します。
構築に必要な時間は、RAIDモードやHDDサイズに依存します。
作業が完了するとホーム画面に戻ります。
8. 管理画面に進む為にログインします。

ディスク管理

ディスク管理では、外付けおよび内蔵されているディスクの容量を確認する事ができます。



ディスク管理画面

チェックディスク

IMPORTANT:

チェックディスク中はドライブが取り外された状態になります。自動コピーやバックアップの実行、保存されているデータへのアクセスはできなくなります。

作業中は、システムの損傷を避けるため、電源を切ったり再起動をしないで下さい。

ディスク管理タブをクリックし、有効なディスクを確認する事ができます。

このメニューより状態を確認でき、それぞれのHDDへ作業をさせる事ができます。

- 状態にカーソルを合わせる事で説明を見る事ができます。(Empty, disk unavailable, good, failed, mirroring).
- 実行内容にカーソルを合わせる事でHDDへの実行内容の確認ができます。

内蔵ディスク

- ディスクを追加--取り付けられたHDDにアクセスを追加します。
- ディスクを削除--取り付けられたHDDへのアクセスを解除します。

容量

- チェックディスク--HDDの不良をチェックします。
- フォーマット--すべてのデータを消去して、HDDディレクトリ構造を構築します。

外付け機器

- マウント→外付け機器へのアクセスできるようにします。
- アンマウント→外付け機器へのアクセスを解除します。
- フォーマット→すべてのデータを消去して、HDDディレクトリ構造を構築します。
- 使用可能な容量と総容量を確認するためには、容量の項目を見てください。

The screenshot displays the 'Internal Disks' section with two tables. The first table lists disk details, and the second table shows formatted capacity with a progress bar and action buttons.

Disk No.	Model	Capacity[GB]	Status	S.M.A.R.T.	Action
1	Hitachi HDS721050CLA662	500.11 GB	GOOD	Info	
2		0.00 GB	EMPTY		

Occupied Capacity	Array Type	File System Type	Formatted Capacity		Status	Action
			Total	Available		
0%	SINGLE	XFS	486.88 GB	486.88 GB	ACTIVE	Check Disk Format

Manufacturer	Device	Capacity[GB]	File Type	Mount	Action

HDD状態の確認

ディスク管理

ディスクの取り外しは簡単です。OMINIASはさまざまなRAIDタイプ、ホットスワップおよび非ホットスワップディスクの取り外しに対応できるよう設計されています。

ホットスワップHDDの交換

フロントパネルのホットスワップボタンを押すか、OMNINASインターフェース上のディスク管理メニューを介してホットスワップHDDを取り外すことができます。(RAID 1モードのみ)

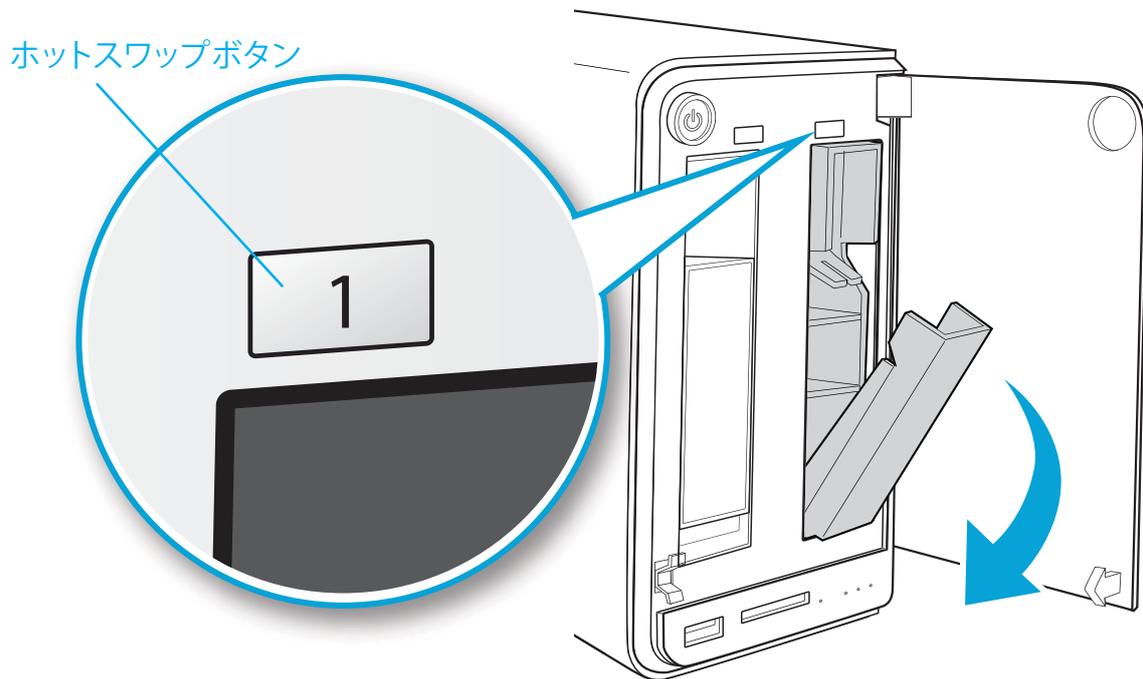
IMPORTANT:

ディスクのフォーマットは、すべてのデータを削除します。実行前には、必ず必要なデータのバックアップを取ってください。また作業中は、システムの損傷を防ぐ為に電源を切ったり再起動をかけないようにしてください。

ホットスワップボタンを用いてHDDを交換するには:

1. 前面のカバーにあるPushと記載されている部分を押しとカバーが開きます。
2. カバーをHDDトレイの取り外しやすい位置まで開いて下さい。

3. ホットスワップボタンを電子音が鳴るまで押し、LEDが点滅することを確認します。以下の図を参照



ホットスワップボタン

HDDを交換するとビーブ音になり、LEDが赤く点滅します。

暫くすると、ディスク管理の状態のタブが変わり新しいHDDの状態が表示されます。

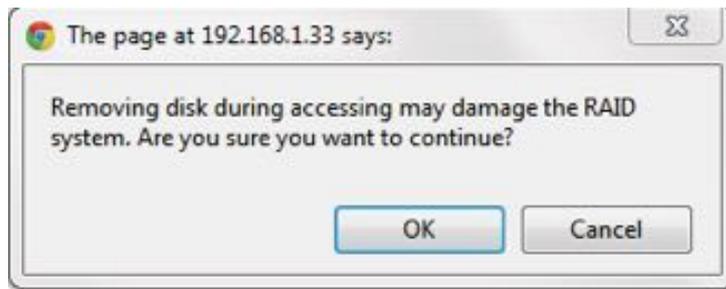
ディスク管理メニューを用いてHDDを交換するには:

1. OMNINAS Webインターフェースへログインします。
2. ストレージに進み使用可能なディスク容量をディスク管理で確認します。
3. 対象のドライブを選択して、ディスクの削除をクリックして下さい。



ディスク管理からホットスワップを実行

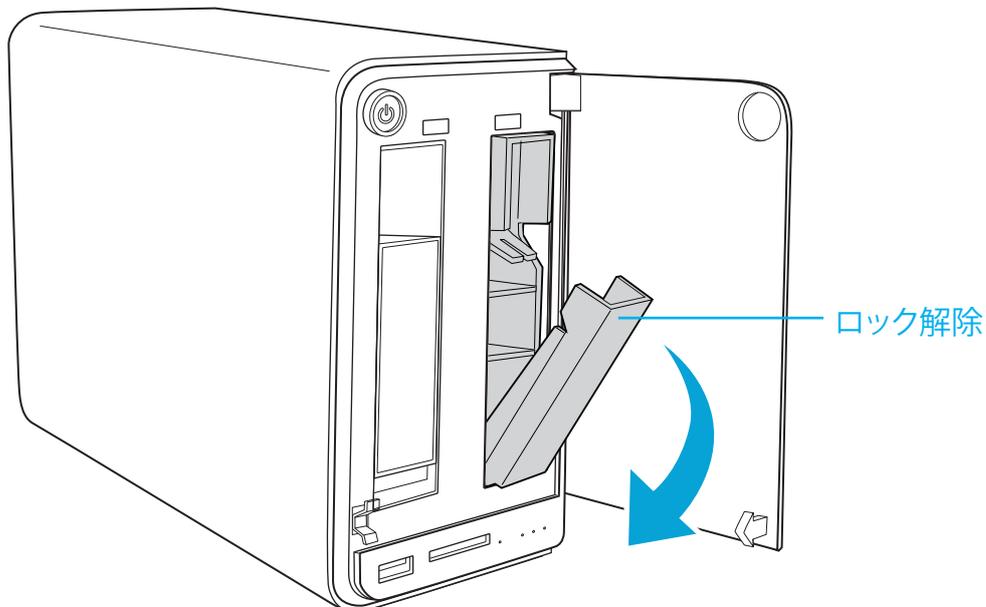
4. ディスクアクセスに関する警告が表示されます。ディスクが使用されていないことを確認してから、OKをクリックして下さい。



ディスク管理を介してのホットスワップの実行

フロントパネルのステータスLEDが青で点滅を始めます。点滅が止まれば、安全に取り外すことができます。

1. 前面のカバーにあるPushと記載されている部分を押すとカバーが開きます。
2. カバーをHDDトレイの取り外しやすい位置まで開いて下さい。
3. トレーロックを下に引いてロックを解除します。
4. スライドさせてトレイを取り出します。



HDDトレイ取り外し

HDDを交換するとビープ音になり、LEDが赤く点滅します

暫くすると、ディスク管理の状態のタブが変わり新しいHDDの状態が表示されます。

ドライブの交換

RAIDのシングルモード、JBOD、RAID0、RAID1の場合は、デバイスをシャットダウンして、ディスクを交換することができます。

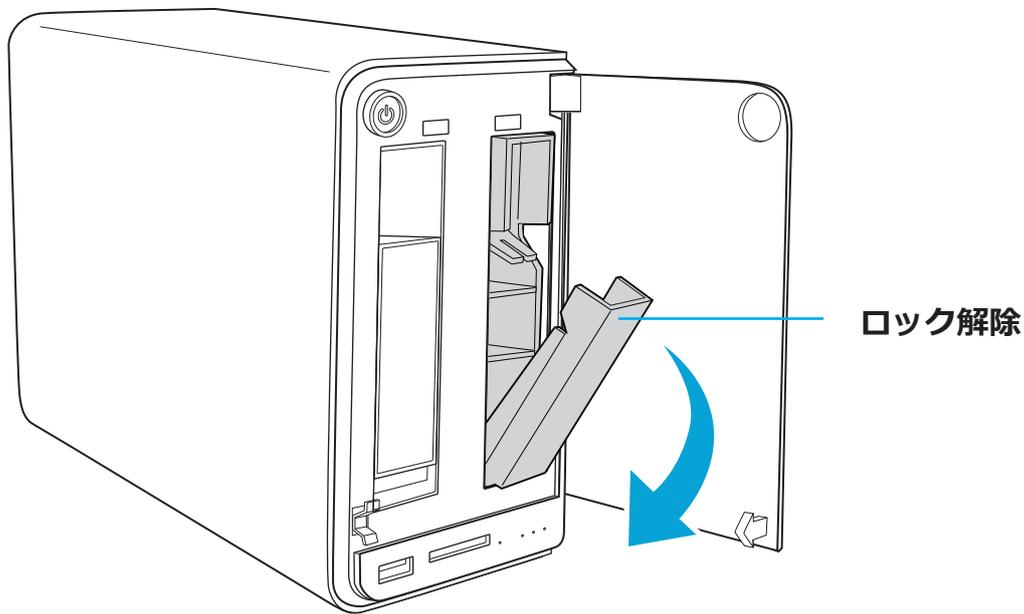
IMPORTANT:

フォーマットを実行するとディスク上のデータがすべて消えます。

実行する前にデータのバックアップを取っていることを確認して下さい。

作業中はシステムの損傷を防ぐ為に、電源を切ったり再起動したりしないでください。

1. 前面のカバーにあるPushと記載されている部分を押すとカバーが開きます。
2. カバーをHDDトレイの取り外しやすい位置まで開いて下さい。
3. トレーロックを下に引いてロックを解除します。



HDDロック解除

4. スライドさせてトレイを取り出します。

フォーマット

ディスクをフォーマットします。

IMPORTANT:

ディスクのフォーマットは、すべてのデータが削除されます。

実行前には必ず必要なデータのバックアップを取ってください。

作業中はシステムの損傷を防ぐ為に、電源を切ったり再起動したりしないでください。

1. ディスク管理を開きディスクの状態を確認します。
2. フォーマットしたいディスクを選択しフォーマットを押します。

The screenshot displays the 'Internal Disks' section with a table of disk information:

Disk No.	Model	Capacity[GB]	Status	S.M.A.R.T.	Action
1	Hitachi HDS721050CLA662	500.11 GB	GOOD	Info	
2		0.00 GB	EMPTY		

Below this is the 'Formatted Capacity' section with a table:

Occupied Capacity	Array Type	File System Type	Formatted Capacity		Status	Action
			Total	Available		
0%	SINGLE	XFS	486.88 GB	486.88 GB	ACTIVE	Check Disk Format

The 'Format' button is highlighted with a red box. Below the formatted capacity table is the 'External Devices' section with a table header:

Manufacturer	Device	Capacity[GB]	File Type	Mount	Action
--------------	--------	--------------	-----------	-------	--------

ディスク管理

3. 確認画面が出ますのでOKを押して続行します。
作業が続行され、完了後にディスク管理画面に戻ります。

自動ミラーリング

RAID1モードでは、2つのHDDに同じデータを保存し続けます。ディスク容量は、2つのうち少ない容量の方へ合わされます。自動ミラーリング機能は、RAID1モード時にのみ有効/無効を設定できます。

自動ミラーリングを使用するためには、HDDが2台搭載されている必要があります。ディスク管理参照

Note:

自動ミラーリング機能はRAID1モードのみ対応です。

HDD サイズやタイプによってミラーリングに数時間を要する場合があります。

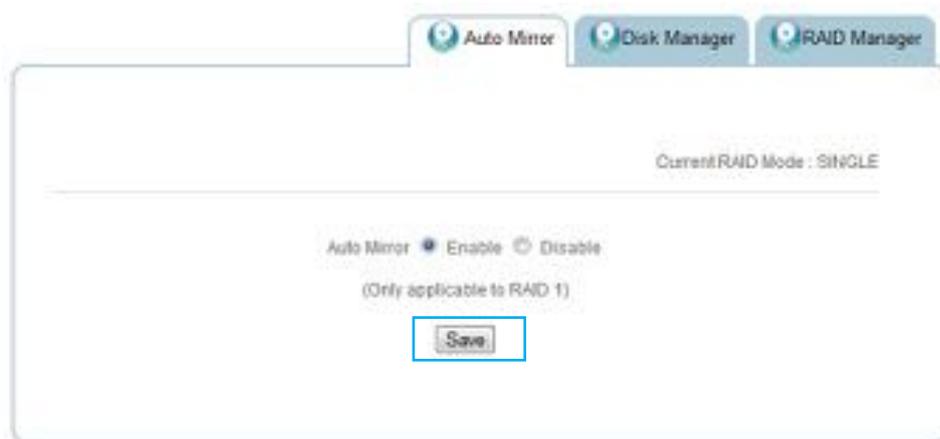
作業中はシステムへの損傷を防ぐ為に、電源を切ったり再起動したりしないで下さい。

自動ミラーリング機能を有効にするとHDDはフォーマットされます。

事前に必要なデータはバックアップを取るようして下さい。

自動ミラーリング機能を有効にするには:

1. HDDを2台取り付け後、OMNINASの電源をONにします。
2. Webインターフェースにログインして下さい。
3. ストレージへ進み、自動ミラーリングをクリックします。
4. 有効をクリックします。保存を押して作業を終了します。

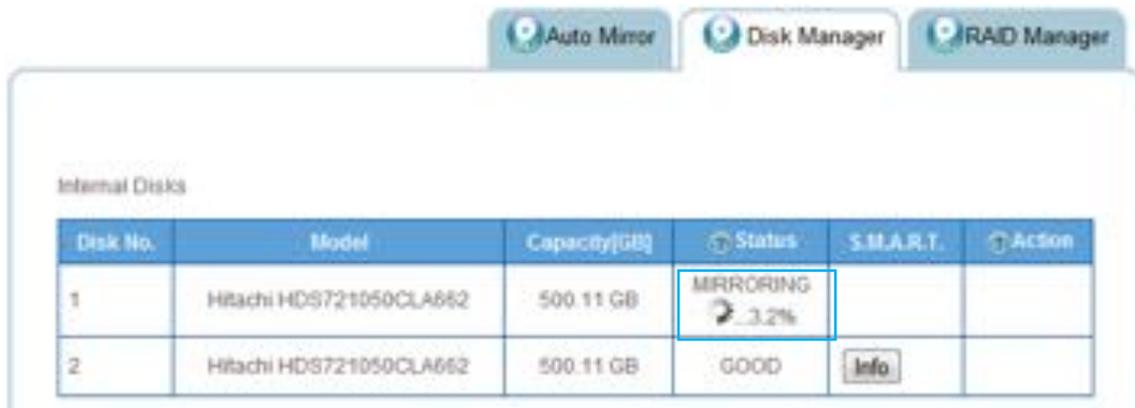


自動ミラーリング

自動ミラーリングを有効にするためには、HDDが2台搭載されている必要があります。ディスク管理参照

5. 前面のカバーにあるPush部分を押し、カバーを開きます。
6. カバーをHDDトレイの取り外しやすい位置まで開いて下さい。
7. トレーロックを下に引いてロックを解除します。
8. スライドさせてトレイを取り出します。
9. HDDを取り付けます。はじめに行うこと参照

ディスク管理画面で両方のハードディスクの同期状況が表示されます。



Disk No.	Model	Capacity[GB]	Status	S.M.A.R.T.	Action
1	Hitachi HDS721050CLA662	500.11 GB	MIRRORING 3.2%		
2	Hitachi HDS721050CLA662	500.11 GB	GOOD	Info	

自動ミラーリング

Note:

自動ミラーリング機能でRAID1を再構築する作業に最大8時間程度かかる場合があります。(HDD容量によります)

共有管理

共有管理では、アクセスできるフォルダやフォルダの追加、フォルダリストの確認をすることができます。

フォルダ追加

共有管理から、共有フォルダのパブリック/プライベートを設定できます。フォルダ追加から新規にフォルダを作成でき、ここでもパブリック/プライベートを設定できます。



フォルダ追加画面

公開フォルダの作成:

1. 共有へ進みフォルダ追加タブをクリックします。
2. フォルダ名と説明を入力します。(説明の入力は必須ではありません)
3. 公開するためにパブリックを選択します。
4. 保存を押します。

フォルダリストに新しいフォルダが表示されるようになります。

プライベートフォルダの作成:

1. 共有へ進みフォルダ追加タブをクリックします。
2. フォルダ名を入力し説明を入れます。
3. アクセスを制限する為に、プライベートを選択します。
4. それぞれのユーザーのアクセス権限を選択します。

User Name	Full Access	Read Only	None
testuser	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

プライベートフォルダの追加

5. 保存を押します。
フォルダリストに新しいフォルダが表示されるようになります。

Note:

プライベートフォルダの初期状態は、誰もアクセスできない状態になっています。

フォルダリストを確認する

フォルダリストは、全てのフォルダを確認でき、編集/削除ができるようになっています。



Status	Folder Name	Public	Action
✔	Folder1	No	<input type="button" value="Edit"/> <input type="button" value="Delete"/>
✔	Private1	No	<input type="button" value="Edit"/> <input type="button" value="Delete"/>
✔	disk	Yes	
✔	iTunes	Yes	

フォルダーリスト画面

フォルダの編集

1. フォルダリスト内で対象となるフォルダを選択し編集をクリックします。
2. 公開/プライベートを変更します。
3. 保存を押します。



Status	Folder Name	Public	Action
✔	Folder1	No	<input type="button" value="Edit"/> <input type="button" value="Delete"/>
✔	Private1	No	<input type="button" value="Edit"/> <input type="button" value="Delete"/>
✔	disk	Yes	
✔	iTunes	Yes	

変更可能なフォルダ

フォルダを削除

作成した公開/プライベートフォルダを削除します。

初期状態で作成されていたフォルダーは削除できません。

IMPORTANT:

フォルダを一度削除すると、そのフォルダー内に保存されているデータはすべて消失します。

削除後に同じ名前のフォルダを作成しても保存されていたデータは復元しません。

1. フォルダリストからフォルダを選び削除を押します。



削除可能なフォルダ

2. 確認画面でOKを押し続行するか、キャンセルしてフォルダリストに戻ります。
3. 確認プロンプトが表示され、OKを押し続行するか、キャンセルしてフォルダリストに戻ります。
4. 電子音が鳴りフォルダリストに戻ります。これでフォルダーの削除は完了です。

USB管理

USBの管理機能では、OMNINASのUSBポートに接続されたプリンタの設定と、USB接続機器の自動コピーをセットアップすることができます。

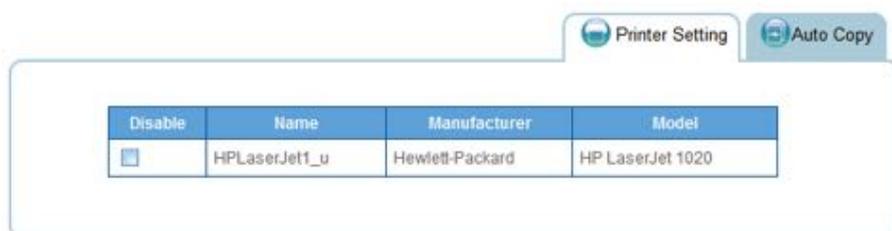
プリンター設定

プリンター設定画面でUSBプリンター接続の有効/無効を設定できます。

Note:

USBプリンターは以下の操作の前に接続する必要があります。

1. ホームメニュー画面からUSBタブを選択して、プリンター設定をクリックして下さい。
接続されたプリンターがプリンター設定メニューに表示されます。
2. ネットワーク探索を無効にするには、プリンタから無効を選択します。



プリンターを無効r

プリンターがネットワーク探索が有効になっていると、プリンターは同じサブネット内のユーザーに表示されます。ユーザーは、ローカルコンピュータにプリンターをインストールすることができますが、別途ドライバーが必要となる場合があります。

IMPORTANT:

当プリントサーバー機能は、双方向通信をサポートしていません。複合機の印刷以外の機能(スキャナー等)や、PostScriptを必要とする印刷ができない場合があります。

自動コピー

自動コピー機能の有効/無効を設定することができます。自動コピーはSDカードと前面USB3.0に接続されたデバイスから可能です。設定を有効にすることで、前面USB3.0ポート・SDカードリーダーにメディアに差し込むと自動的にデバイスの内容をコピーできます。

Note:

自動コピーを有効にするためには、SD/USB3.0を使用したバックアップ設定を削除する必要があります。(バックアップ→バックアップ設定リスト)

Note:

自動コピー機能はフルコピーです。差分バックアップの機能はありません。



自動コピーの設定

1. ホームメニューから、USBを選択し、自動コピーをクリックして下さい。
2. 対象のポート(SDかUSB3.0)を選択して、有効をクリックして下さい。
3. ドロップダウンメニューから保存先のフォルダーをクリックして選択して下さい。
選択したフォルダーにデータが全てコピーされます。

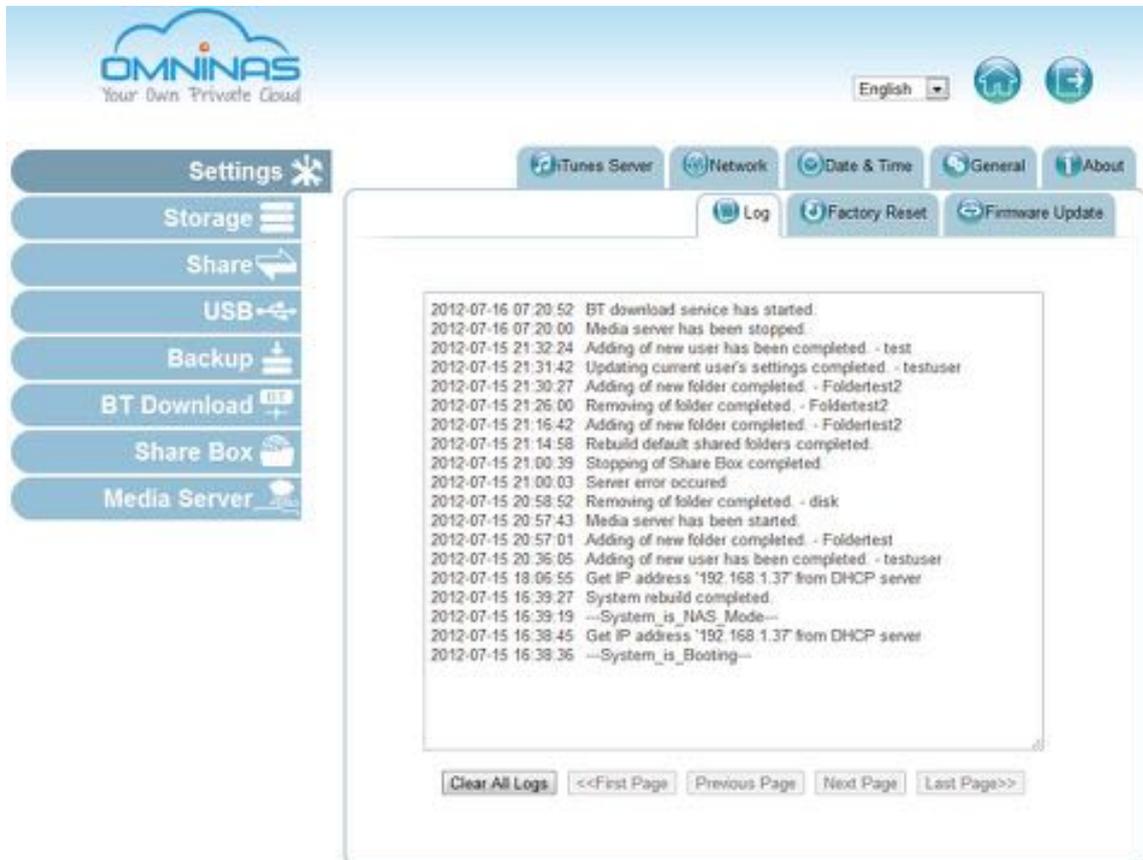


自動コピーの保存先選択画面

システムログ

システムログ画面では、ユーザーの実行内容やシステムの動作について履歴を確認できます。すべてのログ削除、次のページ、最後のページ、が選択できます。

前のページ、次のページ、スクロールバーを使用してログを確認します。



システムログ画面

ログをクリア

全ての記録をクリアします。を押すとログが全て削除されます。

バックアップ

バックアップ画面では、バックアップの設定・バックアップ設定リストの表示・バックアップログの閲覧が可能です。



バックアップログ画面

バックアップスケジュールを設定する

バックアップの内容と実行日時を設定できます。

1. バックアップへ進み、バックアップ設定を選びます。
2. OMNINAS内のバックアップ元となるフォルダを選択し、後から判別しやすいように説明を入力します。
3. バックアップ先を選択します。(外付けUSB/ネットワークに接続された他のOMNINAS)

Backup from OMNINAS KD20 to External Devices

Select OMNINAS KD20 Source: **disk**

Description:

(Name of the backup job, max. 64 characters or less.)

Select your backup destination:

Backup to External Devices

Hitachi HTS5425 16KPSA00-10_1(156.288GB)

Backup to OMNINAS KD20

Host:

User name:

Password:

Time of Execution

Weekdays: Mon Tue Wed Thu Fri Sat Sun

Hours: Hours: Minutes:

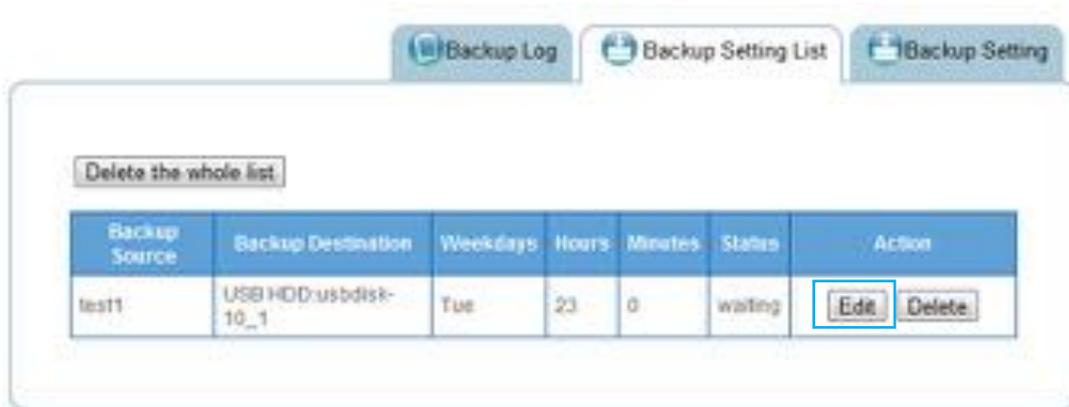
バックアップ作成

4. OMNINASを選択時は、ホスト、ユーザー名、パスワードを入力します。NASをスキャンしますをクリックしネットワーク内で検索を開始します。
5. 実行時間を設定します。
6. 設定したスケジュールを確認するか、もしくはバックアップ実行を押しすぐにバックアップを開始します。

バックアップスケジュールを編集する

バックアップスケジュールは、リストより編集/削除を行う事ができます。

1. バックアップスケジュールにある編集を押します。

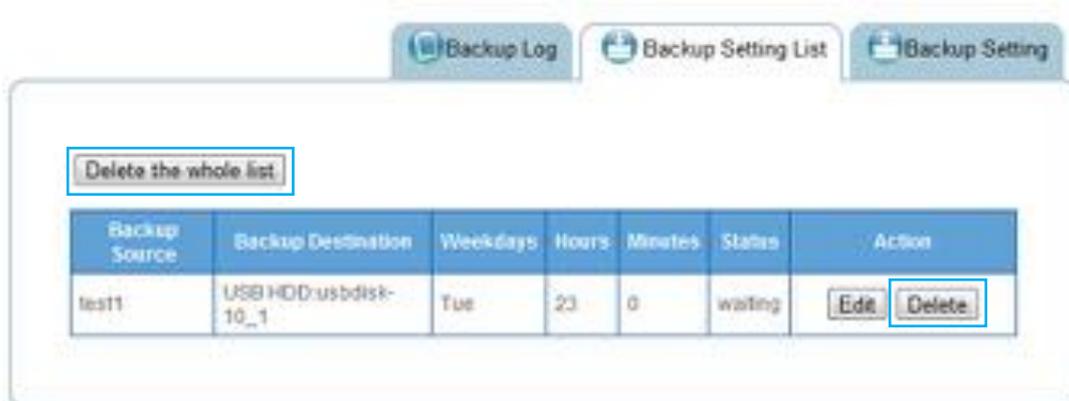


バックアップリストの編集

2. スケジュールを変更しバックアップ設定を保存を押します。電子音が鳴り、設定完了の表示が出たら作業完了です。

バックアップスケジュールを削除する

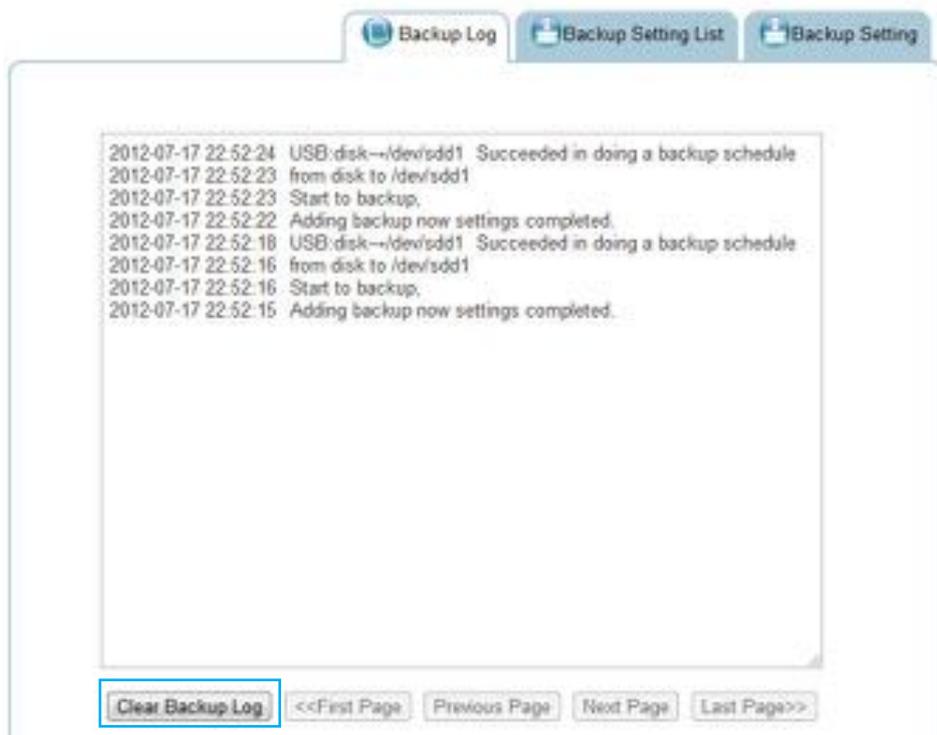
1. バックアップ設定リストから対象を選び削除を押します。
2. 確認画面が出ますので、OKを押して削除を続行するか、キャンセルを押してバックアップ設定リストへ戻ります。
3. 全てのリストを削除します。を押すと全てのバックアップ設定が削除されます。確認画面が出ますので、OKで削除を続行するか、キャンセルを押してバックアップ設定リストへ戻ります。



バックアップ設定リストの編集

バックアップログを確認する

バックアップログよりバックアップに関する履歴を確認することができます。前のページ、次のページを使いすべての履歴を確認できます。



バックアップログ

すべて消すには、バックアップログをクリアを押します。

設定

ここでは、ネットワーク設定、日付時刻、一般設定、情報、ログ、工場出荷時設定、ファームウェアの更新、リセット方法について説明します。

ネットワークの設定

ネットワーク設定からは、ネットワークの詳細設定ができます。OMNINASの名前やワークグループ、IPアドレスの手動設定やDHCPを設定できます。

まず始める前に、OMNINASの名称とワークグループを入力します。

名称には、用途をわかりやすくする為に、MediaNAS、MusicNAS、Family-NAS など主目的に沿ったネーミングを推奨します。("OMNINAS"だけの名前には設定しないで下さい)

ワークグループは、ネットワーク内で同じワークグループのコンピューター間で情報をやり取りするのに必要です。ご使用になるコンピューター、OMNINASは全て同じワークグループに設定してください。

DHCP 設定

Note:

お使いのルーターのDHCP 機能を有効にしてください。

1. OMNINASの設定画面で、ネットワーク設定を押します。
2. IPアドレスの自動割り当て(DHCP)を選択し、ルーターからIPアドレスを自動的に取得するよう設定します。
3. 保存を押して、設定を有効にします。



ネットワーク設定

手動設定

始める前に使用するIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバー情報を書き留めておいて下さい。

IMPORTANT:

手動設定後は、自動でログアウトします。再度ログインが可能になるまで10分程度お待ちください。

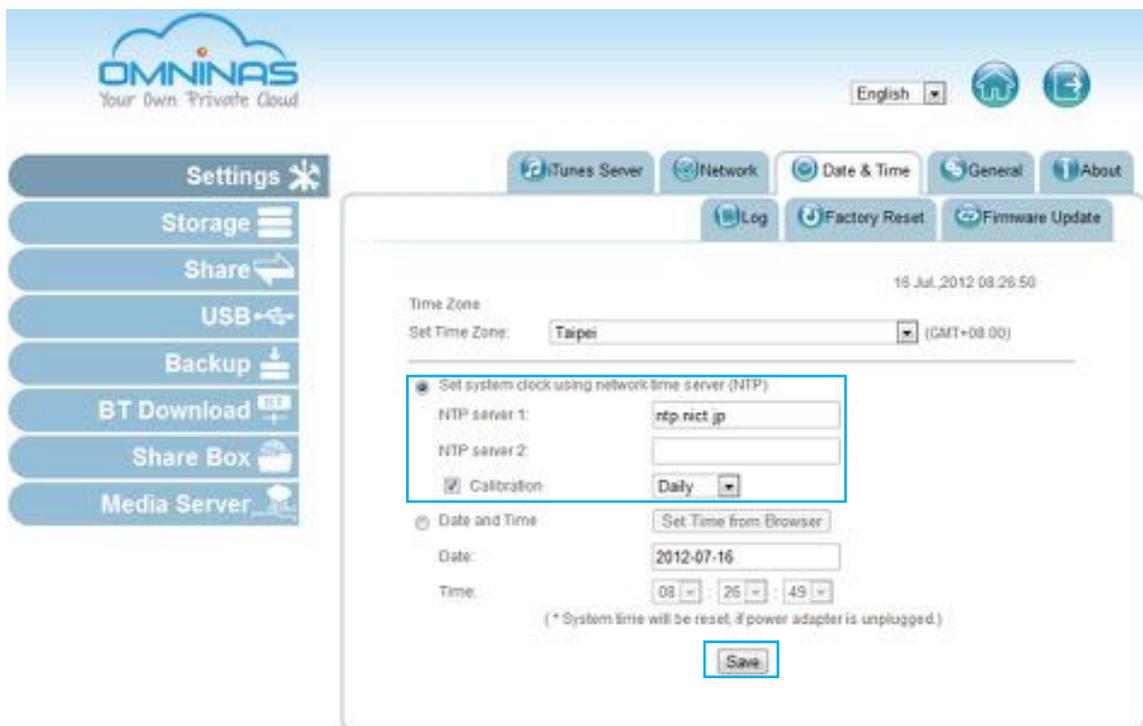
1. OMNINASの設定画面で、ネットワーク設定を押します。
2. IPアドレスを手動設定 を選びます。
3. IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバーを入力します。
4. 保存を押して設定を有効にします。

日時の設定

この画面では日付と時刻の設定をすることができます。タイムゾーン選択すれば、ネットワークタイムサーバー(NTP)を使用する事で自動的に正確な時間を得られます。

ネットワークタイムサーバー(NTP)の設定

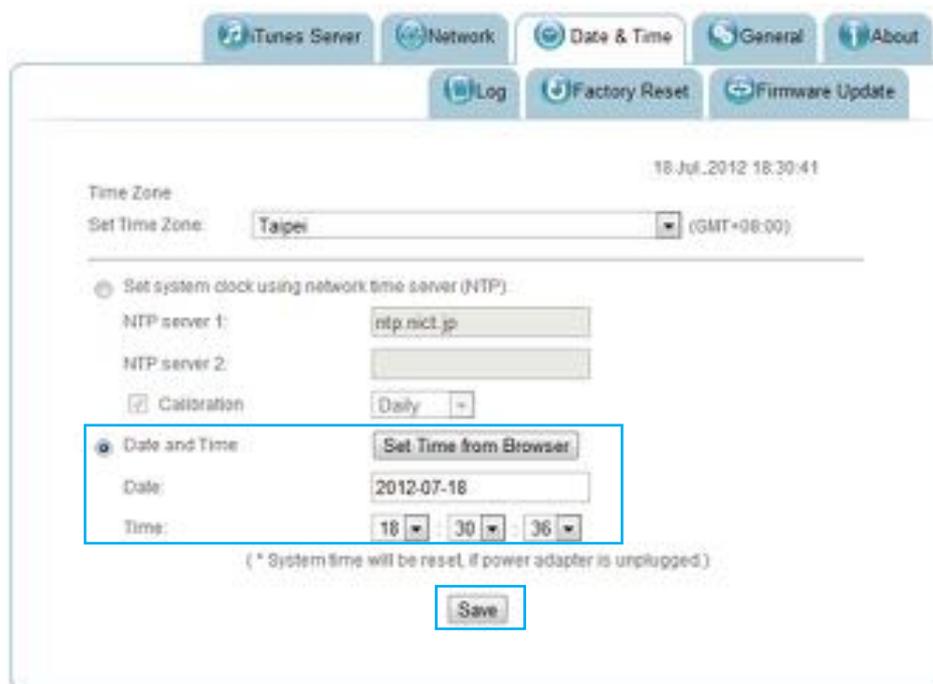
1. 設定に進み、日付時刻を押します。
2. タイムゾーンを選択し、ネットワークタイムサーバーを選びます。
3. NTPサーバーのアドレスを1に入力します。(2への入力は任意です)
4. 更新頻度を毎日、毎週、毎月から選択します。
5. 保存を押し、設定を有効にします。



時刻の設定

ブラウザより日付時刻を設定します。

1. 設定に進み、日付時刻を押します。
2. 日付/時刻を選択します
3. ブラウザより時刻の設定 押すと、日時が自動で入力されます。
4. 日付を入力します。
5. 時間、分、秒をプルダウンを使用して決めます。
6. 保存を押して、設定を有効にします。



ブラウザより時刻の設定

再起動、電源のOFF

再起動させる

1. ホーム  を選びホーム画面に戻ります。
2. 再起動  を押し、システムを再起動させます。



ホーム画面

電源を切る

電源のOFFは、Web管理画面上もしくは電源ボタンを長押しする事で実行されます。

Web管理画面:

1. ホームを押してホーム画面に戻ります。
2. ホーム画面よりシャットダウンを押します。

電源ボタン:

フロントパネルにある電源ボタンを3秒ほど押し続けます。

電子音が鳴り、システムのシャットダウンが開始されます。LEDが点滅し完了まで1~2分かかります。

工場出荷時に戻す

この機能は、ユーザー名からパスワード、保存されているデータと全ての設定をリセットし、工場出荷時に戻すものです。実行する前に、必要なデータはバックアップを取るようして下さい。

IMPORTANT:

保存されているデータとWeb管理画面上の全ての設定が初期化されます。

Web管理画面からのリセット

工場出荷時設定からリセットを押します。



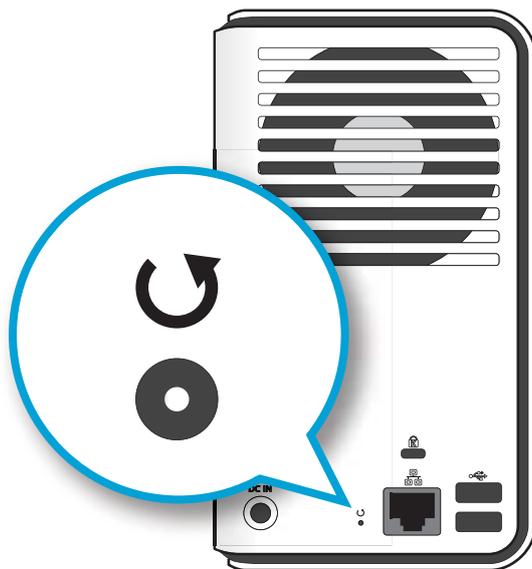
工場出荷時に戻す

本体からのリセット

本体からのリセットでは、管理者パスワード、ユーザー名とパスワード、ネットワーク設定を全て初期化しますが保存されているデータは削除されません。

リセットをする前にOMNINASの電源が入っている事を確認します。

1. 本体背面にあるリセットボタンを確認します。
2. 細いピンのような使用して3秒ほど穴に差し入れます。



リセットボタンの場所

3. 電子音が鳴ったら、押すのを止めます。システムが再起動し工場出荷時の状態に戻ります。
4. ログインします。“ユーティリティを利用して接続する”参照

ファームウェアの更新

システムのファームウェアを簡単に更新できます。

CAUTION:

ファームウェア更新中は、システムの損傷を防ぐために電源を切ったり、電源ケーブルを引きぬかない様をお願いします。

始める前に、最新のファームウェアを下記のサイトからダウンロードして下さい:

<http://global.shuttle.com/download/download>

サポートサイトからOMNINASを選択し、ファイルをローカルにダウンロードします。
ファームウェアファイルは圧縮形式ですが、ファイルを解凍する必要はありません。

1. 設定画面でファームウェアアップデートタブを選択します。
2. 参照をクリックして、ダウンロードしたファームウェアファイルを選択します。
3. 更新を押してアップデートを開始します。



ファームウェアの更新画面

選択したファームウェアイメージが古い場合、確認画面が表示されます。

Note:

ファームウェアファイルは解凍しないでください。また、アップデート順が指定されている場合があります。順序の詳細はファームウェアダウンロードのページを参照ください。

アプリケーションサービス

ここでは、iTunesサーバー、BTダウンロード、外部からのアクセス、メディアサーバーについて説明します。

iTunesサーバー

この機能を有効にすると、同一サブネットに接続されたパソコンのiTunesからOMNINAS内のiTunesフォルダーにアクセスできるようになります。

1. iTunesサーバータブを選択し、iTunesサーバーサービスを有効にします。無効を選択すると機能を止めます。
2. 保存を押して、設定を有効にします。



iTunesサーバー画面

3. パソコンでiTunesアプリケーションを起動します。
OMNINASが共有ライブラリーに表示されます。
4. OMNINASを選択すると、保存されているファイルを再生することができます。



OMNINAS iTunesサーバー

BTダウンロード

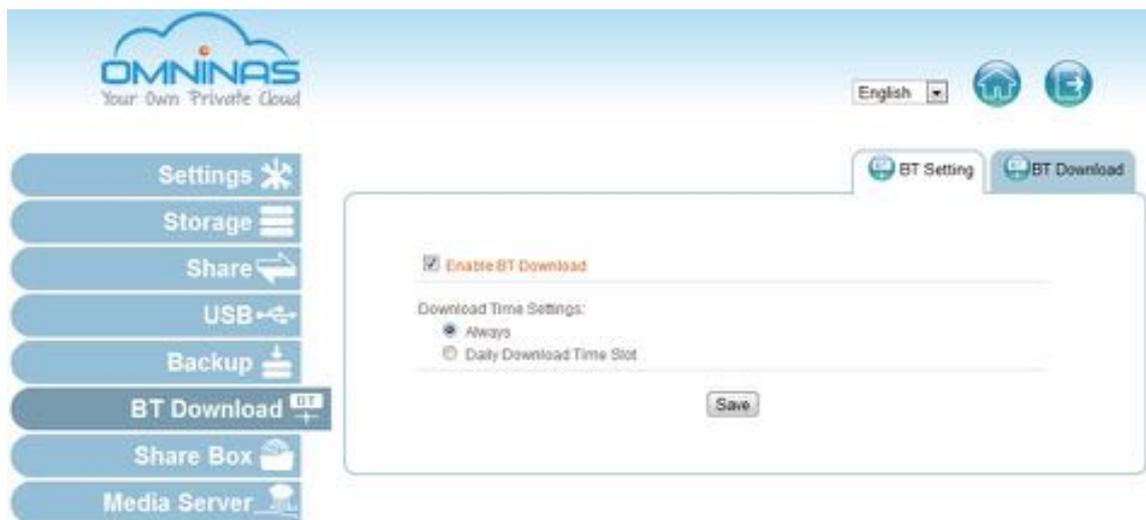
BTダウンロードを有効にし、ダウンロード時間を設定できます。

IMPORTANT:

BTダウンロードを実行するにはメディアサーバーと共有ボックスを無効にする必要があります。

BTダウンロードの設定

1. BT ダウンロードへ進みBT設定を押します。



BTダウンロード

2. BTダウンロードにチェックを入れ下さい。

Note:

BTダウンロードを無効にすると、BTダウンロードに関連する全機能にアクセスできなくなります。BTダウンロードを再度有効にすれば、ダウンロードリストにアクセスできるようになります。

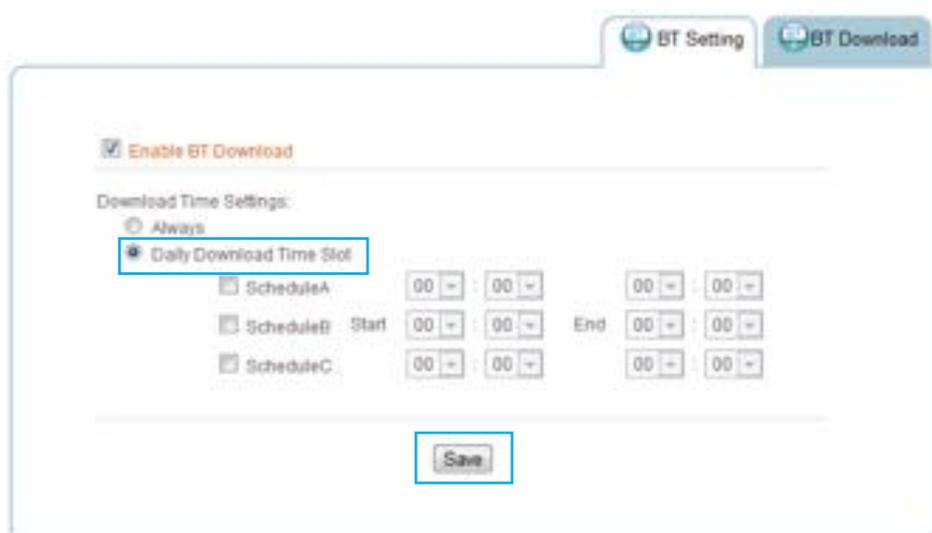
3. ダウンロード時間の設定で、時間を設定してダウンロードするか常時ダウンロードするかを選択し、保存を押します。

常時を選択するとダウンロードは常に実行され続けます。



BT ダウンロードを有効にする

デイリースケジュールは指定された時間の中でダウンロードを実行できます。スケジュールA、スケジュールB、スケジュールCの3パターンから開始時刻と終了時刻を設定してスケジュールを決められます。



BT ダウンロードを有効にする

特定の時間帯を設定し、保存をクリックして下さい。

詳細設定

BTダウンロードが使用する最大帯域幅を設定できます。最大速度は、ダウンロードされたデータの量によってアップロードされたデータを分割して計算されます。

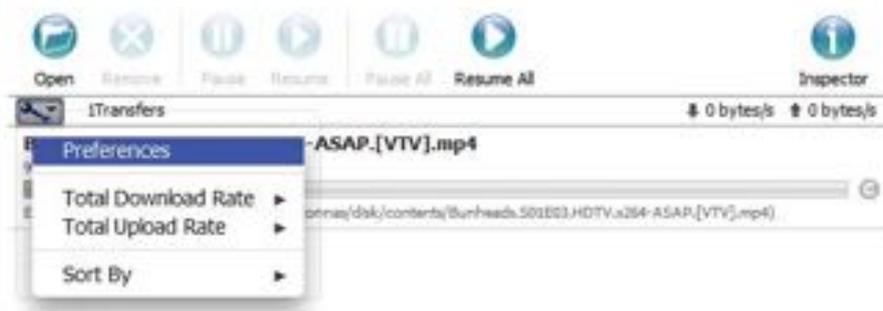
保存先、TCPポート、暗号化、リフレッシュレート、総帯域幅を設定できます。

1. BTダウンロードへ進み  をクリックして設定を開きます。



BT ダウンロード

2. 詳細設定画面を出します。



設定画面

3. 下記の設定が有効です。:
 - 保存先: ダウンロードの保存先を設定します。
 - 転送を開始…: トレントを追加後、すぐにダウンロードを開始します。
 - ネットワーク: TCPポートの変更ができます (初期値: 51413)

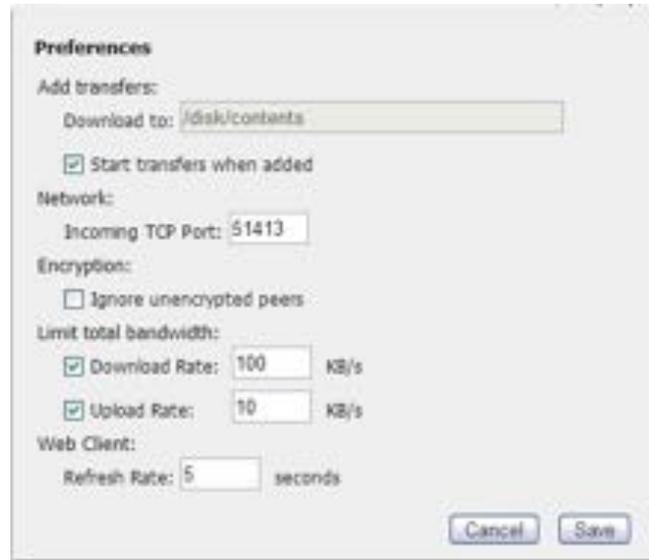
Note:

TCP ポートを変更する場合、ルーターやファイヤーウォールにポート番号がブロックされていないか確認する必要があります。

- 暗号化: データ転送の暗号化を有効にできます。暗号化されていないピアとの接続を無効化します
- 総帯域幅: ダウンロード/アップロードの転送量を設定します。500KB/秒が最大設定です。

アップロード速度とダウンロード速度をそれぞれ変更することができます。

- ウェブクライアント: リフレッシュレートを決めます。

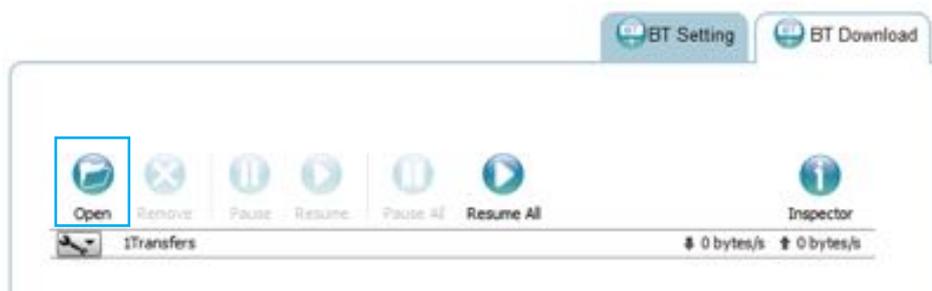


詳細設定画面

4. セーブを押して続けるかキャンセルを押してBTダウンロード画面に戻ります。
5. ダウンロード制限速度を決めます。0は制限無しになります。500KB/秒が最大です。
6. アップロード制限速度を決めます。0は制限無しになります。500KB/秒が最大です。
7. 整列で、並び順を変更できます。(初期: 名前順)

ダウンロードファイル

1. BTダウンロードを使用してダウンロードする場合  をクリックしファイル選択画面を開きます。



ファイルの選択

ファイル選択画面が出ます。

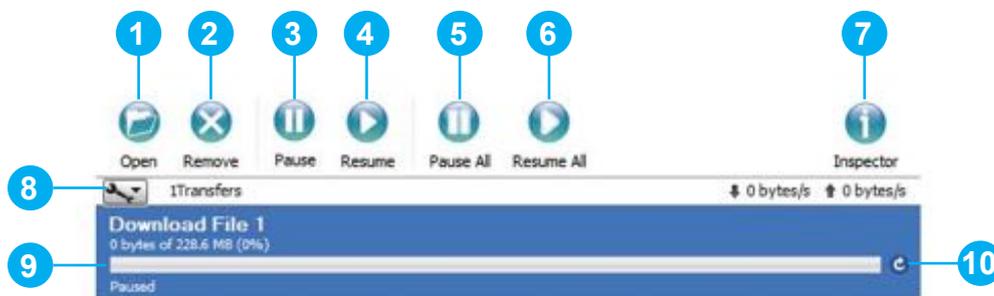
2. ファイル選択を押してトレントファイルを選択します。
3. アップロードを押して続行するか、キャンセルをしてBTダウンロード画面に戻ります。



ファイル選択画面

ファイル管理

ステータスを確認し、ダウンロードファイルを各ボタンで操作できます



ファイル管理メニュー

ファイル管理

番号	アイコン	説明
1		ファイル選択画面を開きます
2		一覧から選択したファイルを消す
3		指定したファイルのダウンロード停止
4		指定したファイルのダウンロード再開
5		すべてのダウンロードを停止
6		すべてのダウンロードを再開
7	i	情報を確認する
8		詳細設定
9		ダウンロード進行状況

番号	アイコン	説明
10		現在のダウンロードを停止/再開します

共有ボックス

共有ボックスを使うとLANの外部からOMNINASへ接続できます。

共有ボックスの設定

外部からの接続は下記の通りです：

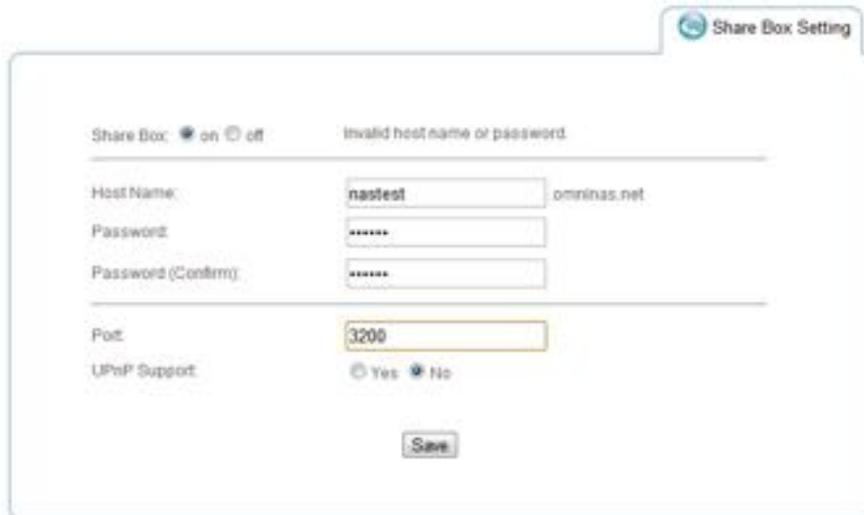
1. 共有ボックスに進み、設定画面を開きます。



共有ボックス設定

2. 共有ボックスを有効にし、外部からの接続を可能にします。
3. ホスト名にホスト名前を入力します。これが登録アカウントとなります。
4. パスワード欄にパスワードを入力します。後からポート設定を変更する際に必要になります。

5. ポート番号を設定します(初期値: 3200)。ポート番号は3200~6400の間で設定可能です。他のNASやアプリケーションで使用されていないポート番号を指定してください。



共有ボックス設定

IMPORTANT:

UPnP機能を使えば自動でルーターのポート解放設定を行えます(ルーターのUPnP設定が有効になっている必要があります)。UPnPを使用する場合、ルーターのポート解放設定を手動で行わないでください。UPnPをサポートしていないルーターの場合、指定したポート番号に転送するようルーターの設定をする必要があります。

6. 保存を押し、"ポート設定が完了しました"と表示されたら完了です。



共有ボックス設定

外部からのアクセス

共有ボックスは、インターネットに接続された様々な機器からOMNINAS内の共有ファイルにアクセスする機能です。

Note:

共有ボックスを使用する前に、ユーザーを最低1つ作成しておく必要があります。共有ボックスにアクセスするには、作成したユーザーのユーザー名とパスワードを使用します。

1. ブラウザを開きアドレスを入力します。

<http://www.omninas.net>

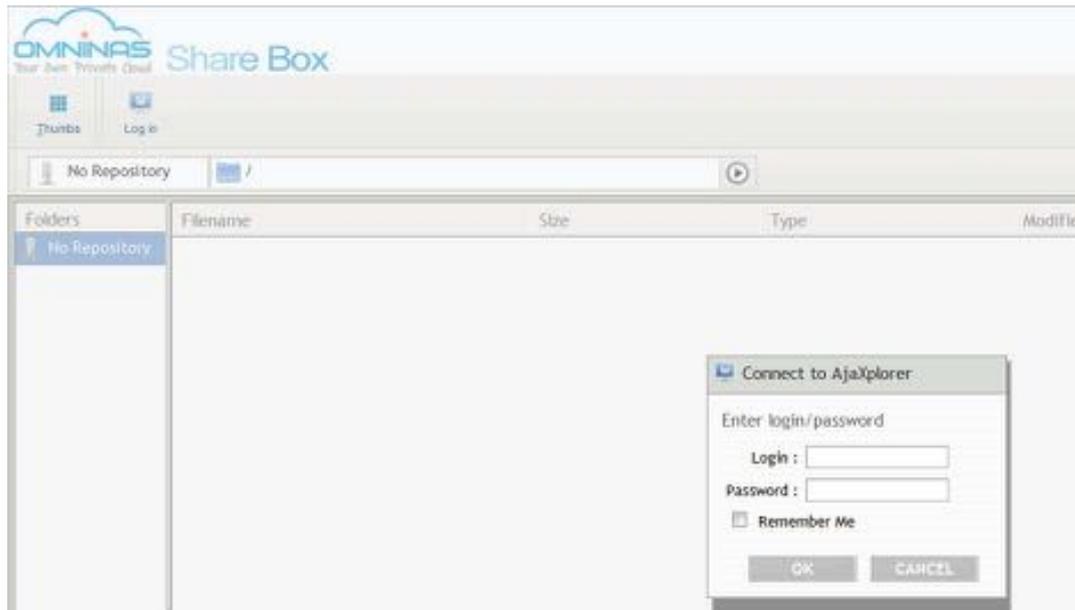
画面が現れます。



入力画面

2. OMNINAS Name 欄に登録したホスト名を入力します。“共有ボックス”参照

3. Connect を押します。s
共有ボックスページが表示されます。.

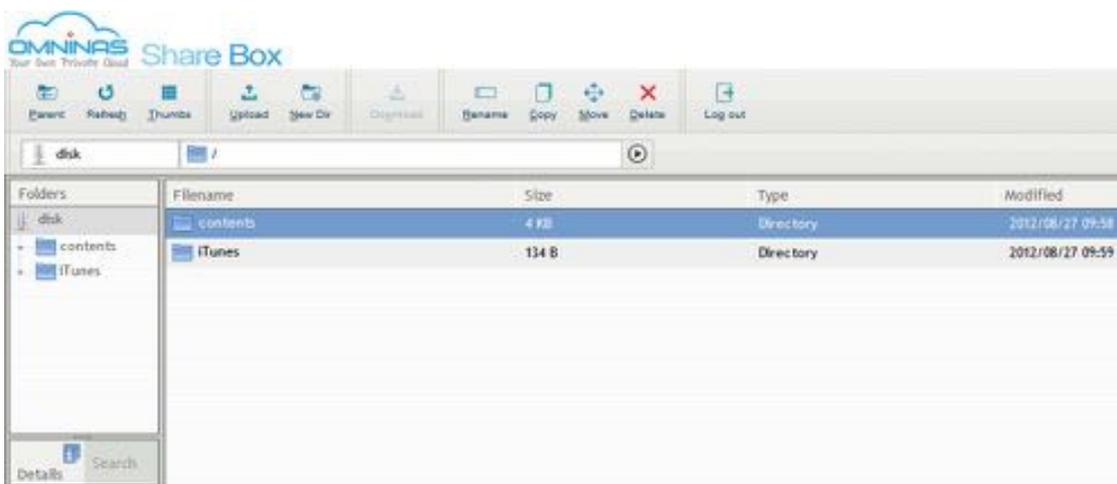


共有ボックスログイン画面

4. 事前に作成したユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。ユーザーの追加参照
上記の方法以外に、直接ホスト名とポート番号を入力して接続する方法もあります。その場合は以下のように、ブラウザのアドレス欄に入力します。

[ホスト名].omninas.net:[ポート番号] ([]内は共有ボックス設定で設定したホスト名とポート番号です。括弧[]を入力する必要はありません。)

ログインに成功するとOMNINASに保存されたデータが閲覧できます。



共有ボックス接続画面

共有ボックスのリモートアクセス画面の説明

共有ボックスのリモートアクセス画面

アイコン	名称	説明
	上へ	ひとつ上の階層に戻ります
	更新	画面を最新に更新します
	サムネイル	サムネイル表示に切り替えます
	アップロード	アップロードするファイルを選択します
	新規フォルダ作成	新しいフォルダを作成します
	ダウンロード	選択したファイルをダウンロードします s
	名前を変更	選択したファイルの名前を変更します
	コピー	選択したファイルを複製します
	移動	選択したファイルを移動します
	削除	選択したファイルを削除します
	ログアウト	ログアウトします

Note:

いくつかのアイコンはファイルを選択した時にのみ有効になります。

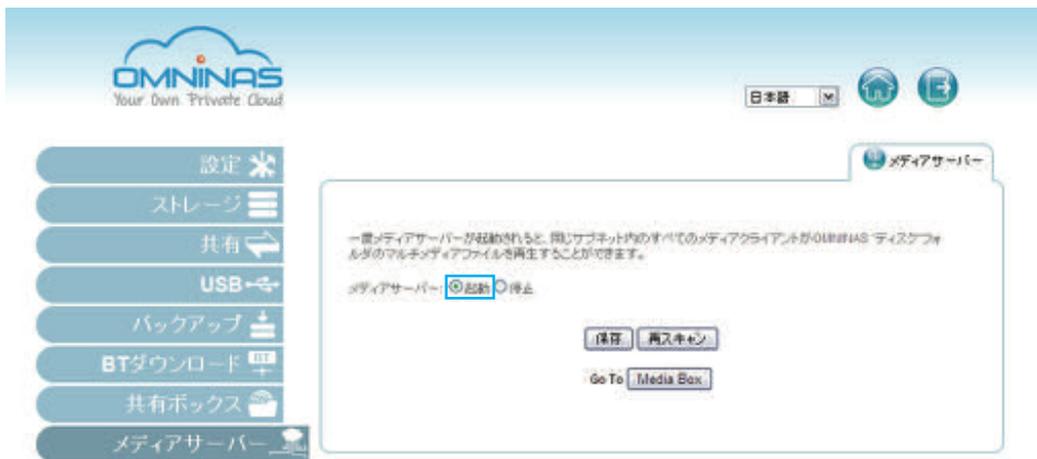
メディアサーバーの設定

ここではメディアサーバーの設定について説明します。

IMPORTANT:

メディアサーバーは、BT ダウンロードを無効にしないと機能しません。

1. メディアサーバーをON にします。
2. 再スキャンをかけて最新のリストに更新します。



メディアサーバー

Twonky Server の画面で以下のイメージのようなOMNINASメディアサーバーが表示されます。



Twonky Server スクリーン上でのメディアサーバー

Chapter 4

OMNINAS for Android

Android OMNINAS アプリケーションは、OMNINAS への外部接続を可能にします。メイン画面に接続する為、画面をタッチしてください。

アプリケーションをインストール

アプリケーションは、Google PlayマーケットよりOMNINASで検索しダウンロードしてください。お使いのAndroid端末よりOMNINASへ接続することができるようになります。

重要：

Android端末を使用して、OMNINASへ接続するには少なくともユーザーを一人追加し共有BOX設定を完了して下さい。

概要

アプリケーションの接続画面よりヘルプ、接続先について確認する事ができます。キャッシュのクリア機能も同様です。

Note:

ご利用の端末により異なる場合があります。

1. OMNINASをタップします。



OMNINAS

接続先画面



接続先画面

2. メニューボタンを押すと下の通り、ヘルプが表示されます。



ヘルプメニュー

3. 知りたい情報に応じてタップします。
ヘルプ: OMNINASヘルプ
情報: ライセンス及びバージョン情報
キャッシュクリア: ソフトウェアのキャッシュをクリアします。

OMNINASへ接続する

OMNINASへは、WANもしくはLANを使用して接続する事ができます。
WAN利用時はDDNS接続を構築しなければいけません。
LAN利用時はOMNINASが同じサブネット化である必要があります。

WANで接続する

1. OMNINASをタップします。



OMNINAS

接続先画面が出ます。



WAN接続画面

2. 空欄をタップし、共有ボックスで設定したホストネームを入力します。
3.  アイコンをタップし接続先を追加します。
4. ログイン画面が出ます。
OMNINASで設定したユーザー名とパスワードを入力します。
5. 接続するには、ログインを、前のメニューに戻るには、キャンセルをタップして下さい。



ユーザー名とパスワードを入力する

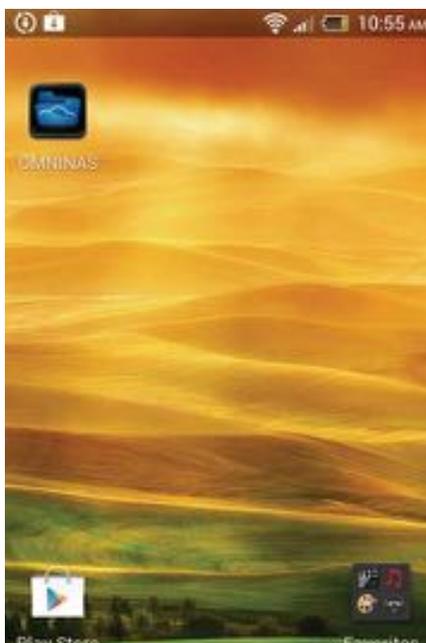
接続先が確立されるとOMNINASへ接続する事ができるようになります。

LANで接続する

Note:

LANで接続する場合は、OMNINASがルーター及びスイッチングハブを経由して同じネットワーク内になければなりません。

1. OMNINASをタッチします。



OMNINAS

接続先画面が出ます



LAN接続画面

2. ネットワーク内にあるデバイスが一覧で出ます。
3. ログイン画面で、ユーザー名、パスワードを入力します。
4. 続けるためには、サインインを前のメニューに戻るには、キャンセルをタップして下さい。

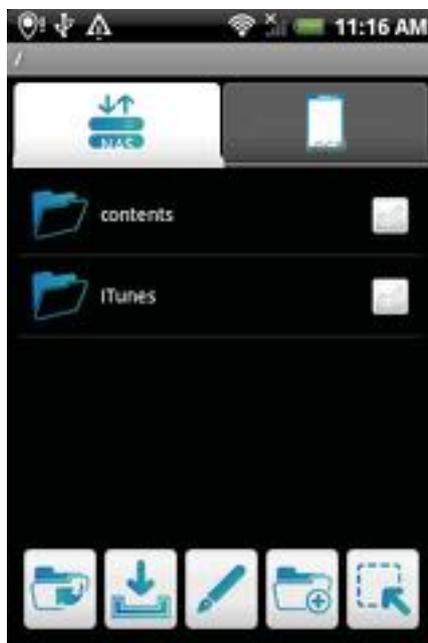


ユーザー名とパスワードを入力する

T接続先が確立されるとOMNINASへ接続する事ができるようになります。 .

メインメニュー

メイン画面上の機能には、前にページに戻る、ダウンロード、編集、フォルダーの追加、選択があります。



NAS メイン画面一覧

NAS メイン画面一覧の機能

アイコン	アイテム	説明
	前のページ	前のページへアクセスします。
	ダウンロード	ダウンロードページへアクセスします。
	編集	編集ページへアクセスします。
	フォルダーの追加	フォルダーの追加へアクセスします。
	選択ファイル	フォルダーの選択へアクセスします..

ドキュメント

ドキュメントの開き方：

1. 一覧から書類ファイルをタップして下さい。
2. 必要に応じて、ファイルを表示するためには任意のサブフォルダーをタップして下さい。
3. 自動的に表示するためには任意のファイルをタップして下さい。



ドキュメントを開く

ムービー

ムービーの開き方：

1. 一覧からムービーをタップして下さい。
2. 必要に応じて、ファイルを表示するには任意のサブフォルダーをタップして下さい。
3. 自動的に再生するためには任意のファイルをタップして下さい。

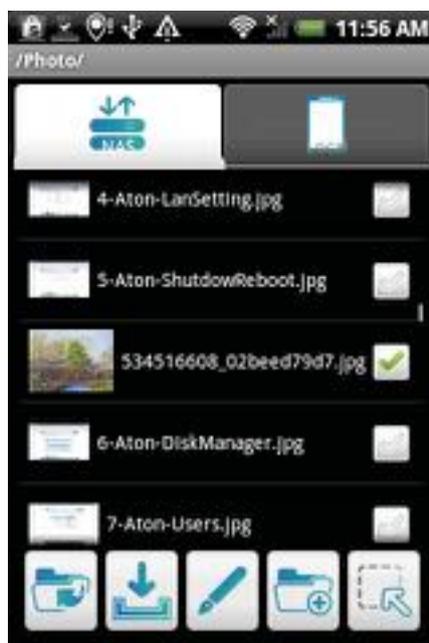


動画ファイルを開く

写真

写真の開き方：

1. 一覧から写真をタップします。
2. 必要に応じて、ファイルを表示するには任意のサブフォルダーをタップして下さい。
3. 自動的に表示するためには任意のファイルをタップして下さい。



画像ファイルを開く

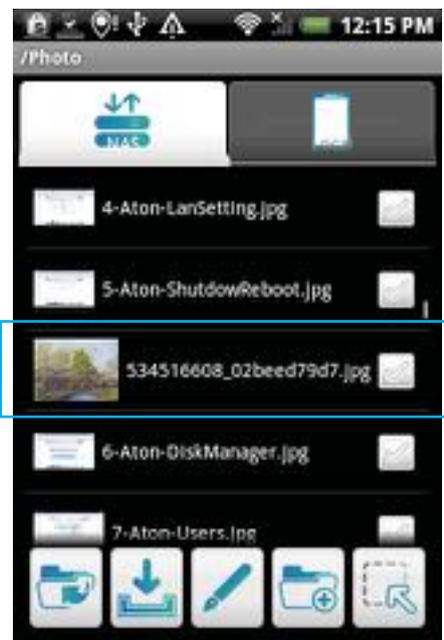
Facebook への投稿

Facebook への投稿方法 :

重要 :

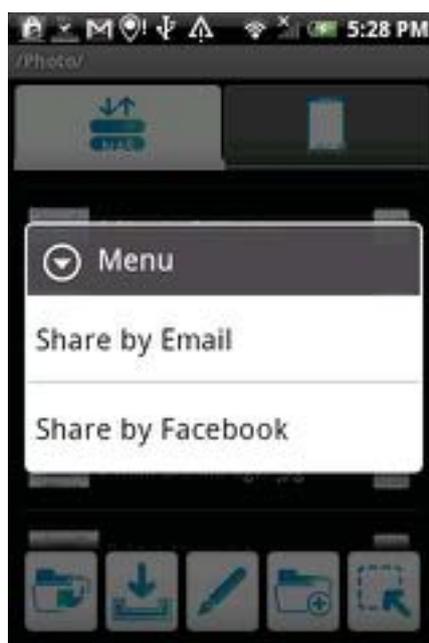
Facebook のアカウントが必要です。

1. 任意の写真ファイルをタップしたまま押さえて下さい。



画像ファイルの選択

2. 画面にポップアップが表示されます。
3. Facebook のログイン画面を開くために Facebook で共有するをタップして下さい



画像ファイルを共有する

4. 継続して Facebook のアカウントにログインします。

重要：

もし Facebook の共有機能がインストールされていない場合、自動的にインストールされます。



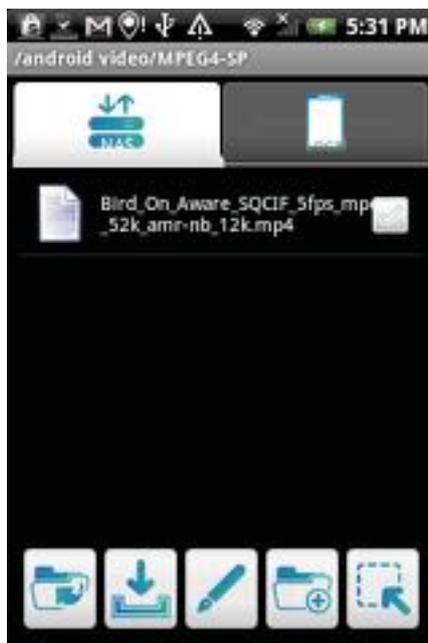
Facebook へログインする

5. After a successful login, your photo is posted on Facebook.

ビデオ

ビデオの開き方法：

1. 一覧からビデオをタップします。
2. 必要に応じて、ファイルを表示するには任意のサブフォルダーをタップして下さい。
3. 自動的に再生するためには任意のファイルをタップして下さい。

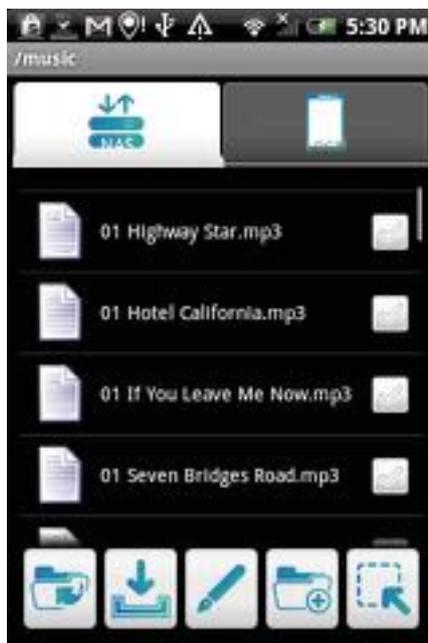


ビデオファイルを開く

音楽

音楽ファイルの開き方：

1. 一覧から iTunes をタップします。
2. 必要に応じて、ファイルを表示するには任意のサブフォルダーをタップして下さい。
3. 自動的に再生するためには任意のファイルをタップして下さい。



音楽ファイルを開く

トレント

トレントファイルは、ダウンロード完了時より有効となります。

トレントファイルの開き方：

1. 一覧からトレントをタップします。
2. 必要に応じて、ファイルを表示するには任意のサブフォルダーをタップして下さい。
3. 自動的に再生するためには任意のファイルをタップして下さい。



トレントファイルを開く

Chapter 5

OMNINAS for iOS

iPhone OMNINAS アプリケーションは、お使いの OMNINAS デバイスにアクセスできません。NAS のメイン画面にアクセスするためにこのアプリケーションをタップして下さい。この画面の機能には、情報、ヘルプ、詳細設定、ローカルリンク、リモートリンクがあります。

OMNINAS アプリケーションは、お使いの iPhone の機能の App Store からダウンロードしてご利用頂けます。OMNINAS アプリケーションを選択して、アプリをダウンロードして下さい。

Note:

iOSアプリケーションにアクセスする前に、お使いのOMNINASに1つユーザープロフィールを追加する必要があります。

メインメニュー

このセクションでは、OMNINAS アプリケーションの各メニュー項目について説明致します。



NAS メイン画面一覧

NASメイン画面一覧の機能

アイコン	アイテム	説明
	情報	ライセンスとバージョンの情報を提供します。
	ヘルプ	OMNINAS の機能に関する基本的な情報を提供します。
	詳細設定	マニュアルセットアップの設定を変更します。
	ローカルリンク	スマートデバイスと同じサブネットのデバイスに接続します。

アイコン	アイテム	説明
	リモートリンク	リモートリンクセットアップの設定を変更します。.

OMNINAS に接続

リモートデバイスを追加

NAS のメイン画面一覧からリモートリンクセットアップ設定を変更する方法 :

1. 画面上のリモートリンク  を押してください。
2. 共有ボックスに登録されているNASのホスト名を入力
3. ユーザーネーム/パスワード: 登録名/定義のユーザープロフィールとしてのパスワード
4. ユーザプロファイルのユーザ名とパスワード、登録名とパスワードを入力します。
5. デバイスを追加するには、Doneをタップします。NASリストに戻るには、Cancelすることができます。



リモートデバイスを追加

追加されたリモートデバイスは、NASリストに表示されます。



利用できるリモート接続

ローカルデバイスの追加

Note:

アプリケーションを介してローカルデバイスを追加するには、スイッチハブやルータを介してOMNINASに接続する必要があります。スイッチングハブ/ルーターに接続するを参照

NASリストのメイン画面から自動セットアップ設定を変更するためには:WAN/LANでOMNINASに接続する必要があります。LANオプションは、現在のスマートデバイスと同じサブネットで利用可能なデバイスのリストを提供しています。



NAS リスト画面

1. 画面上ローカルリンク  を押して下さい。
2. 自動セットアップ画面が表示されます。使用可能なデバイスを選択します。



ローカル接続の選択

3. ログイン画面では共有設定で定義されているユーザー名とパスワードを入力します。



ローカルログイン画面

接続が確認されると、選択されたデバイスには、横にチェックが表示されます



ログイン成功

4. 継続するには、Doneをタップします。接続が可能なNASデバイスが下に表示されます。



利用可能なローカル接続

設定

NAS のメイン画面一覧からマニュアルセットアップ設定を変更する方法：

1. 画面の下部の詳細設定をタップして下さい。
2. 必要とする情報を入力します。
3. 完了と OK をタップして変更を完了するか、メイン画面一覧に戻るにはキャンセルをタップして下さい。



マニュアルセットアップ設定を変更する

ドキュメント

ドキュメントの開き方法：

1. NASメイン画面一覧から文書ファイルをタップして下さい。
2. 必要に応じて、ファイルを表示するには任意のサブフォルダーをタップして下さい。
3. 自動的に表示するためには任意のファイルをタップして下さい



ドキュメントを開く

IMPORTANT:

編集をクリックすると名前を変更する、コピー、移動、機能をダウンロードするにアクセスできます。

ムービー

ムービーを開く方法：

1. NAS メイン画面一覧からビデオファイルをタップして下さい。
2. 必要に応じて、ファイルを表示するには任意のサブフォルダーをタップして下さい。
3. 自動的に再生するためには任意のファイルをタップして下さい。

4. メニューに戻るためには完了をタップして下さい。



動画ファイルを開く

IMPORTANT:

編集をクリックすると名前を変更する、コピー、移動、機能をダウンロードするにアクセスできます。

写真

写真の開き方：

1. NASメイン画面一覧から写真ファイルを選択してください。
2. 必要に応じて、ファイルを表示するには任意のサブフォルダーをタップして下さい。
3. 自動的に一つずつ画像を表示するには、任意のファイルをタップして下さい。
4. すべての画像を表示するには、すべてを参照してくださいをタップします、一つずつ表示するためには完了をタップして下さい。
5. ファイルフォルダーに戻るには左上の画面のファイル名をタップして下さい。
6. NAS 一覧に戻るには、スラッシュ [/] をタップします。

Facebook への投稿

Facebook への投稿方法：

IMPORTANT:

Facebook のアカウントが必要です。

1. NAS 一覧画面から、デバイスを選択し、ログインをタップして下さい。
2. 画面上部にある編集をタップして下さい。赤い丸で囲んだアイコンが、それぞれの画像ファイルの横に表示されます。画像ファイルを選んでタップして下さい。
3. 使用するイメージを選択します。
4. 画面上のShareを押して下さい。



画像を共有する

5. Facebookを押して下さい。



Facebook へ写真を共有する

6. 画面が表示されたら、Facebook にログインします。

IMPORTANT:

もし Facebook の共有機能がインストールされていない場合、自動的にインストールされます。

7. 画像が Facebook 上で共有されました。 .

Chapter 6

トラブルシューティング

トラブルシューティング

インターフェースかハードウェアの問題の場合は、下記のトラブルシューティングを行うことを推奨します。

下記の WEB サイト上には、ユーザーのための詳しい情報が記載されています。また、ご不明の場合は Shuttle サポートセンターまでお問い合わせ下さい。

OMNINAS web サイト : <http://global.shuttle.com/main/index>

Q ユーザー名かパスワードを忘れてしまった場合

- A**
- 細長いピンを使ってNASの後ろ側にあるリセットボタンを押して、システムを再起動させて下さい。
 - 管理者モードに入るためにデフォルトのユーザー名(admin)とパスワード(空白)を入力して下さい。

Q システム設定後、NAS のデバイスが見つからない場合。

- A** 次の手順を実行して下さい：
1. LAN を抜いてから、しばらくしてまた接続して下さい。もしそれでも解決しない場合は次の手順に進んで下さい。
 2. 自動で IP アドレスを取得するために、PC の TCP/IP 設定を DHCP にセットしてください。
 3. 電源ボタンを 4 秒間押して NAS をシャットダウンさせて下さい。完全にシステムがシャットダウンするまでしばらくお待ち下さい、その後に OMNINAS を再起動させるために電源ボタンを押して下さい。
- この手順をするためには、同じネットワークグループに PC と OMNINAS を設定する必要があります。

Q NAS が突然シャットダウンした場合

- A**
1. NAS が涼しい場所にあるか確認して下さい、NAS に搭載されている HDD の温度が 62 以上だと突然シャットダウンします。
 2. NAS 内蔵されているファンが動いているか確認して下さい。温度が上昇すると内蔵ファンの回転数が上がるように設計されています。
 3. NAS は温度センサーをサポートしない HDD はサポートしていません（正確な温度設定が必要とされます）。

Q USB ポートが故障した場合

- A** USB デバイス / ハブの電力使用量が指定された最大制限を超えていないことを確認して下さい。必要に応じて、USB ドライブ用の外部電力を供給して下さい。

Q 管理ページに入ることができない場合

- A**
1. 管理者プロフィールが使用されていないことを確認して下さい。
 2. 管理プロフィールをログオフするか、一時的に LAN を抜いて下さい。
 3. 10 分待って下さい（全てのアクセスが 10 分後にタイムアウトします）。
 4. LAN ケーブルを再接続して下さい、その後に管理者ページに入ってください。

Q Finderツールを利用しても NAS デバイスを検出することができない場合

A PC / ルータ側の LAN 接続と設定を確認した後、以下の手順をを実行して下さい：

1. OMNINAS の電源を切して下さい。
2. 両方の HDD を NAS から取り外して下さい。
3. NAS の電源を入れて下さい (LAN ケーブルは、PC、スイッチ、または DHCP の ルータに接続する必要があります)。
4. 起動プロセスが完了したかどうかを確認するために電源ボタン LED のステータスを確認する。
5. PC システムでファインダープログラムを実行します。OMNINAS を検出します。
6. NAS を検出できなかった場合、NAS を再起動して下さい。
7. 万が一それでもデバイスが検出できなかった場合は、トラブルシューティングのネットワーク設定をバイパスする方法を参照して下さい。
8. 万が一デバイスが検出できた場合、デバイスを選択し、接続するをクリックして下さい。
9. ブラウザのウィンドが開き、コマンドプロンプトが NAS をシャットダウンしハードディスクを追加するための命令を表示します。
10. シャットダウンを開始するボタンをクリックして、NAS が完全に電源が切れるのとシャットダウンするのを確認して下さい。
11. ドライブベイに HDD を取り付けて下さい。
12. 検出されるかどうかを確認しながら NAS を起動して下さい。
13. それでもデバイスが検出されない場合は、OMNINAS を設定し直して下さい。。

Q ネットワークドライブを割り当てできない場合

- A**
1. ネットワークドライブの切断して使っていないネットワークドライブを削除して下さい。
 - ドライブ文字の隣にある下向きの矢印をクリックしてドロップダウンメニューを開き、割り当てられたドライブ文字を変更して下さい。
 - すべてのネットワークドライブを削除するためにFinderのユーティリティを使用します。
 2. その後、再びネットワークドライブ（複数可）を再接続するにはFinderユーティリティを使用します。

Q ネットワーク設定をバイパスする場合

A NAS デバイスの検出の問題を簡素化するために、NAS が問題ないことを確認するには、次の手順を実行して下さい。

1. NAS の電源を切って下さい。
2. LAN ケーブルを使って PC と NAS を接続して下さい。
3. 取り付けられている HDD を NAS からはずして下さい。
4. 短い間連続して、NAS の電源ボタン LED が赤く点滅します。
5. お使いの PC システムのファインダーユーティリティを実行します、そして接続されているデバイスの検索を実行します。

デバイスが検出されない場合は、次の手順に進みます：

6. サポートされたブラウザを開き、直接 NAS の管理ページに接続するために `http://169.254.100.200` を入力します。
7. 応答がない場合、PC 上で、DOS コマンドを開き、次のように入力します。
`ping 169.254.100.200`
8. ピングコマンドがタイムアウトのメッセージを返した場合、販売代理店にお問い合わせください。
9. ピングコマンドが接続応答した場合、違うブラウザを開き、4の手順に進んでください。
10. デバイスがファインダーユーティリティではなくブラウザを介して検出された場合、4 の手順に戻ってください。
11. デバイスがファインダーユーティリティを使って検出された場合とブラウザを介して検出された場合は、管理者ページにアクセス可能です。ネットワーク設定を確認し、PC と NAS デバイスが同じ LAN ネットワーク内にあることを確認して下さい。

Q リモートアクセスに接続できない。

- A**
1. ルーター設定
 - 共有ボックスのポート設定（3200～6400）は、ルータの設定と競合しないことを確認してください。ポートの設定が競合する場合は、共有ボックスのポート設定を変更してください。
 - OMNINASとルーターは、複数の層で接続していません。
 2. OMNINAS設定
 - ホスト名がすでに登録されていないことを確認してください。
 - 工場出荷時に戻した時、共有ボックス、共有アカウントを再設定する必要があります。
 - ファームウェアが更新またはOMNIANSが電力を突然の損失した場合は、リモート接続を確保するための共有ボックスの設定を再登録して下さい。
 - ルータまたはケーブル/ ADSLモデムがあって、電源を入れ直す場合は、リモート接続を確保するための共有ボックスの設定を再登録して下さい。

環境動作

システム温度

OMNINAS は、過熱による損傷から保護するための特性があります。下記の場合で、強制的にシャットダウンされます。

システム温度が 65 度を越えてしまった場合

システム FAN 設定

デフォルトではファンは通常の温度条件の下では動作しません。システムファンの動作状況を下記に記載します。

- 通常の状態 - ファンは動作しません。
- 55°Cから59°C - ファンは動作します。
- 60°Cから61°C - ファンは通常時より回転します。
- 62°C以上 - システムがシャットダウンします。